板　　木

群馬県へき地教育研究資料第６２集

平成２６年３月

群　馬　県　教　育　委　員　会
群馬県へき地教育研究連盟
群馬県へき地教育振興会

序

群馬県教育委員会では、へき地教育の振興につきまして、昭和29年の「へき地教育振興法」の制定以来、様々な施策を実施して参りました。今年度も、へき地教育振興会への補助、へき地教育センター運営費及びへき地学校巡回図書費の補助など多くの施策を推進しております。

一般に「へき地教育」というと「へき地、小規模、複式形態」の「３特性」があると言われています。群馬県では、自家用車の利用が進み、道路状況の改善が図られたことなどにより、へき地といっても、以前ほど都市部との距離を感じられなくなった学校が多いと思います。また、複式形態については、複式学級自体は存在するものの、群馬県独自の施策で小学校複式学級解消特配や非常勤講師を配置したことにより、多くの教科で学年ごとの授業が行われています。さらに、学校規模については、人口減の著しい地域を中心に、極少人数で日々の授業を行っている学校があります。しかし、山間地域でも統合が進んだ学校などでは、小規模とは言えない児童生徒数を有している学校もあります。このように、一概に「へき地教育」といっても、それぞれの地域によって状況は異なり、その状況に応じた教育が求められています。

さて、へき地教育資料「板木」の発行も本年度で62回目を迎えました。この資料には、閉校となったへき地学校の記録や地域の特色を生かした学校経営、へき地学校における教育実践、さらには大きく変化するへき地学校の様子を示す資料等が紹介されています。ぜひ、各地域の状況に応じたへき地教育を実践するための貴重な資料として、参考にしていただければと思います。

また、平成26年度には本県において、全国へき地教育研究大会が開催されます。昨年度から実行委員会を立ち上げて準備を進めていただいており、平成25年11月14日には、みなかみ町カルチャーセンターを会場にプレ大会を行っていただきました。大会スローガンである「群馬の風にのり　ふるさとを愛し　新しい時代を拓く子どもを育てよう」に向け、群馬の恵まれた自然環境の中で、ふるさとのよさを生かしながら、生き生きと新しい時代に向けて学習する児童生徒の姿を、全国に向けて発信していただけるよう準備をお願いいたします。

このように、へき地教育にかかわる先生方の御尽力により、着実にへき地教育の充実が図られていることに感謝申し上げるとともに、今後さらにへき地教育が発展するよう、関係市町村教育委員会、県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟と連携して、一層努力して参りたいと思います。

最後になりますが、ここに、へき地教育研究資料「板木」第62集の刊行に御尽力された県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟の関係各位に対し敬意を表すとともに、各教育機関等において「板木」が十分に活用されますことを御期待申し上げて序といたします。

平成26年3月

群馬県教育委員会

教育長　**吉野　勉**

「板木」第６２集の刊行に寄せて

皆様は、へき地というと、どのようなイメージをもたれるでしょうか。都市部から遠く生活が不便、山深い、雪が多いなどでしょうか。昭和29年に施行された「へき地教育振興法」では、「交通条件及び自然的、経済的、文化的諸条件に恵まれない山間地…」と示されております。群馬県へき地教育振興会は、この「へき地教育振興法」の施行に伴い、本県へき地教育の諸条件の整備・充実を図ることを期して設立されました。そして、この目標を達成すべく、60年間、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び県へき地教育研究連盟とともに、へき地教育にかかわる種々の事業に取り組んでまいりました。

この間、へき地教育を取り巻く環境は大きく様変わりをいたしました。近年は、車社会化や交通網の整備、高度情報化社会の進展などにより、以前ほど都市部との距離を感じられなくなりました。むしろ、豊かな自然に恵まれた環境の中で行われる体験活動、地域との密接な関係等を生かした教育活動などは、へき地教育におけるメリットではないでしょうか。

しかし、課題がないわけではありません。児童生徒数の少ないへき地校では、一人一人に対してきめ細やかな指導が行える反面、児童生徒同士の学び合いや集団的な活動が行いにくいといった面があると伺っております。また、寒冷地域や豪雪地域では、地域の特性を生かした季節スポーツが行える反面、児童生徒の安全管理や教育環境の整備に毎年多大なる御苦労をいただいております。

このようなへき地学校で学ぶ児童生徒の様子を拝見いたしますと、温かな人間関係に支えられ、満面の笑顔を浮かべながら学習に取り組んでおります。このような姿は、へき地教育に献身的に取り組まれている先生方や地域において様々な御支援をくださっている多くの皆様の御尽力の賜であると心から感謝申し上げます。

このたび、へき地教育研究連盟の方々が中心となって、本県へき地学校で行われている特色ある教育等をまとめた「板木」第62集が刊行されますことは、本県のへき地教育の現状と課題を明確にし、今後のへき地教育の振興を図る上でたいへん意義深いものと考えます。関係各位におかれましては、へき地教育に関する研究や実践をまとめたこの「板木」を十分御活用いただき、群馬県のへき地教育の発展・充実のために御尽力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

最後に、平素よりへき地教育の振興に御協力いただいております県当局をはじめ、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び各地域の皆様に、厚く御礼申し上げますとともに、一層の御指導と御協力をお願い申し上げまして、刊行に寄せてのあいさつといたします。

平成26年３月

群馬県へき地教育振興会

会　長　　**星野　已喜雄**

「板木」第62集の発刊にあたって

平素より、関係の皆様には、へき地教育並びに群馬県へき地教育研究連盟の活動に対しましてご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年も群馬県へき地教育研究資料「板木」が第62集として発刊の運びとなりました。改めて60年以上も脈々と受け継がれてきた先輩方のへき地教育への思いの強さに敬意を表すとともに、これまで板木の発刊に携わってこられた多くの皆様に心から感謝を申し上げます。

さて、へき地教育は今、へき地校の減少により、岐路に立たされていると感じています。

現在、関東甲信越へき地教育研究連盟は、１都７県で構成された組織となっています。それは、平成24年度末で神奈川県と千葉県が加盟校の減少により退会となったからです。そして、平成27年度には、埼玉県もへき地校がなくなり、退会する予定となっています。そうすると７都県の組織となり、その中で関東ブロックや全国の研究大会を行ったり、役員や各種発表等を担当したりすることになります。

一方、群馬県の状況はというと、昭和63年度には96校あったへき地校は、平成15年度には70校となり、20年度には57校、そして25年度には46校(うち休校２校)となっています。そして、今後も統廃合は続き、今年度末には２校閉校、26年度末には５校減り、27年度末には２校閉校になります。つまり計画通りに進むと、平成28年度は37校(うち休校２校)ということになります。

実はこの37校の中には、小中併設校がＣブロック(利根・沼田・渋川)に２校あり、併設校の校長は１人ですので、実際に連盟に所属し活動する校長は33人ということになります。

今後、これ以外の統廃合があるかも知れません。このような中で、現在の活動を維持できるかというと、難しい状況が当然出てきます。

この現状を踏まえ、先輩方からのへき地教育に対する熱い思いを引き継ぎつつも、新しい組織の体制、新しい研修の在り方を探っていく必要があるのではないかと感じています。

そんな中、平成26年秋には、第63回全国へき地教育研究大会が群馬県を会場に開催されます。この群馬大会の開催に向け、平成23年度から準備会を行い、24年度には実行委員会を立ち上げ準備にあたって参りました。

今年の全国へき地教育研究大会は三重県で開催されました。三重大会にも参加させていただきましたが、その準備の行き届いた運営に感動し、群馬県としても、万全の準備をし大会を成功させたいという思いを新たにしました。

群馬大会が、全へき連第８次長期５か年研究推進計画の１年目となり、新たな計画がスタートします。

新しい時代に対応した学校・学級経営や学習指導の深化・充実を目指し、「ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成」を図るために、充実した研究を積み重ね、群馬大会でお示ししたいと思います。

群馬県へき地教育研究連盟の加盟校は決して多くはありませんが、総力を結集して準備にあたっていきたいと思います。

ぜひ多くの皆様に参加をお願いし、ご指導をいただければありがたいと存じます。

結びに、第62集発刊にあたり執筆や編集に携わっていただきました先生方にお礼を申し上げるとともに、ご指導ご支援いただきました群馬県教育委員会並びに群馬県へき地教育振興会をはじめ、関係の皆様に深く感謝申し上げ、発刊にあたってのあいさつといたします。

平成26年３月

群馬県へき地教育研究連盟
理事長　**吉野　隆哉**

もくじ

序　文
県教育委員会教育長
県へき地教育振興会長
県へき地教育研究連盟理事長

第１部　へき地教育の振興
Ⅰ　変貌するへき地の学校
安中市立坂本小学校の閉校 ---------- 1
安中市立坂本小学校（前）校長　安部　基彦
甘楽町立秋畑小学校の閉校 ---------- 2
甘楽町立秋畑小学校（前）校長　池田　隆郎
中之条町立伊参小学校の閉校 ---------- 3
中之条町立伊参小学校（前）校長　澤野　尚人
嬬恋村立東小学校の閉校 ---------- 4
嬬恋村立東小学校（前）校長　地田　功一
嬬恋村立鎌原小学校の閉校 ---------- 5
嬬恋村立鎌原小学校（前）校長　山口　廣

Ⅱ　へき地の学校経営
21世紀をたくましく生きる六合っ子の育成 ---------- 6
中之条町立六合小学校長　冨沢　正
小中連携・中高一貫を生かした教育の推進 ---------- 8
沼田市立利根中学校長　角田　和志

Ⅲ　学習指導の改善に関する実践的な研究
自ら健康づくりに取り組む細野っ子の育成 ---------- 10
～よりよい食習慣の確立を目指して～
安中市立細野小学校長　長谷川　好江

Ⅳ　へき地学校における生徒指導の実践
〈1〉小学校　全職員で取り組む積極的で笑顔あふれる生徒指導 ---------- 12
みなかみ町立藤原小学校長　下田　洋一
〈2〉中学校　伝統をつなぐ生徒主体の生徒指導 ---------- 14
高崎市立倉渕中学校長　松本　操

第２部　へき地学校教員研修のあゆみ
Ⅰ　平成25年度へき地学校教員研修の概要 ---------- 16
群馬県へき地教育研究連盟研究部長
沼田市立利根中学校長　角田　和志

Ⅱ　第62回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉概　　要 ----------17
〈2〉提案要旨
《小学校１班》
生きる力を育む小中連携・一貫教育 ----------18
～小中併設校のよさ・地域との連携を通して～
沼田市立多那小学校長　　狩野　俊丈
《小学校２班》
自他の大切さを認め合い　生き生きと活動する児童の育成 ----------19
～人権教育を基盤とした学校づくりを通して～
長野原町立北軽井沢小学校長　　高橋　通泰
《中 学 校 班》
「郷土に誇りを持ち、たくましく生きる力を持つ生徒の育成」を
目指した学校経営 ----------20
上野村立上野中学校長　　飯出　哲夫

〈3〉第63回全国へき地教育研究大会群馬大会・プレ大会
《概要説明》 ----------21
全国へき地教育研究大会群馬大会研究部長　　飯出　哲夫
《開会式･全体会のシミュレーション》 ----------22
全国へき地教育研究大会群馬大会副実行委員長　今井　典幸
《分科会構想》
①Ａ分科会（高崎市立宮沢小学校） ----------23
②Ｂ分科会（上野村立上野中学校） ----------24
③Ｃ分科会（高山村立高山小学校） ----------25
④Ｄ分科会（東吾妻町立坂上小学校） ----------26
⑤Ｅ分科会（嬬恋村立東部小学校） ----------27
⑥Ｆ分科会（長野原町立応桑小学校） ----------28
⑦Ｇ分科会（中之条町立六合中学校） ----------29
⑧Ｈ分科会（昭和村立大河原小学校） ----------30
⑨Ｉ分科会（沼田市立利根中学校） ----------31

Ⅲ　へき地教育ブロック別実践研究集会

〈1〉Ａブロック（前橋・高崎・安中・多野・甘楽） ----------32
〈2〉Ｂブロック（吾妻） ----------33
〈3〉Ｃブロック（利根・沼田・渋川） ----------34

Ⅳ　第62回全国へき地教育研究大会（三重大会）

〈1〉概要報告 ----------35
上野村立上野中学校長　　飯出　哲夫

〈2〉分散会報告

第６分散会　課題意識をもって自ら学び、共に高め合う学習過程の改善･充実を図る --------36
高山村立高山小学校長　田村　典彦

〈3〉分科会報告

Ａ分科会　小中の連続した学びを基盤にした「生きる力」の育成 ----------37
～国語科でのひとり学びの力を育てる～
みなかみ町立藤原小学校長　下田　洋一

Ｂ分科会　小中の連続した学びを基盤にした「生きる力」の育成 ----------38
～少人数の特性を活かした指導･支援のあり方～
県教育委員会義務教育課指導主事　増茂　孝行

Ｃ分科会　自らをみつめ、互いの思いを認め合いながら高まり合う子ども ----------39
～伝え合う力を高めよう～
長野原町立応桑小学校教諭　根岸　菜穂美

Ｄ分科会　自らを見つめ、高まっていこうとする生徒の育成 ----------40
～人権学習・ふるさと学習・自問学習の相乗作用を土台して～
片品村立片品中学校長　小野　和好

Ｆ分科会　進路保障の確立を目ざして ----------41
～基礎・基本の定着と学習意欲を高める指導法の工夫～
上野村立上野中学校長　飯出　哲夫

Ｇ分科会　基礎・基本を確実に身につけ、意欲的に学ぼうとする子どもの育成 ----------42
～わかる算数科の授業を通して～
嬬恋村立田代小学校長　宮﨑　光男

Ｈ分科会　自己を見つめよりよい生き方を考え仲間とともに高め合える生徒の育成 -------43
～ともに支え合い　理解し合える仲間づくり～
中之条町立六合中学校教頭　樋口　猛

Ｉ分科会　聴き合い、伝え合い、学び合える児童の育成 ----------44
～人・地域とのつながりの中で～
高崎市立宮沢小学校教諭　堤　陽一

Ｊ分科会　小規模校（へき地校）の特色を活かした豊かな学びの研究 ----------45
～学習意欲の向上・地域発掘の取組～
沼田市立利根中学校長　角田　和志

《資　料》

Ⅰ　平成25年度へき地学校資料 ----------46
Ⅱ　平成25年度群馬県へき地教育振興会役員 ----------49
Ⅲ　平成25年度群馬県へき地教育研究連盟役員 ----------50
Ⅳ　平成25年度群馬県へき地教育センター指導員 ----------51
Ⅴ　平成25年度へき地教育功労者 ----------52

あとがき ----------53

第１部

へ　き　地　教　育　の　振　興

群馬県へき地教育研究大会　兼
全国へき地教育研究大会プレ大会　会場

群馬県へき地教育研究大会　研究協議
小学校Ⅰ班

群馬県へき地教育研究大会　研究協議
小学校Ⅱ班

群馬県へき地教育研究大会　研究協議
中学校班

Ⅰ　変貌するへき地の学校

安中市立坂本小学校の閉校

安中市立坂本小学校　（前）校長　**安部　基彦**

1　はじめに

本校のある坂本地区は、安中市の最西部に位置し、古代より交通の要衝の地であった。特に江戸時代より、西は碓氷峠、東は碓氷の関所に挟まれた宿場町として栄えた地域であったが、時の流れとともに地域の様子も大きく変わり、過疎化・高齢化が進んだ。明治8年に開校以来、最盛期には326名を数えた本校の児童数も年々減少し、平成24年度には新入生が0で全校児童が9名となった。

2　学校の沿革

明治８年　坂本学校として開校する（児童数51名）
明治17年　坂本小学校となる（児童数128名）
明治19年　坂本尋常小学校となる
明治29年　坂本尋常高等小学校と改称する（児童数36名）
昭和16年　坂本町国民学校と改称する（児童数274名）
昭和22年　坂本町立坂本小学校と改称する（児童数241名）
　　坂本小学校PTAが設立される
昭和25年　新校舎（現校舎）が完成する（児童数250名）
昭和29年　町村合併により松井田町立坂本小学校と改称する（児童数252名）
昭和36年　松井田町立第三小学校と改称する（児童数240名）
昭和45年　プールが完成する（児童数123名）
昭和50年　創立100年記念式典・祝賀会が挙行される（児童数95名）
昭和60年　松井田町立坂本小学校と改称する（児童数81名）
平成７年　3月31日入牧小学校が閉校し、4月1日坂本小学校に統合される（児童数49名）
平成18年　安中市・松井田町の合併により安中市立坂本小学校と改称する（児童数34名）
平成24年　3月24日　閉校式を挙行する（児童数9名）3月31日　閉校　4月1日臼井小に統合

3　おわりに

作者と一緒に愛唱歌「峠のシェルパ」を歌う児童

開校以来138年間、温かく見守る地域に支えられながら坂本小学校の子どもたちは精一杯頑張ってきた。平成になってからも「野鳥愛護モデル校」「体力作り実践推進校」等に取り組み大きな成果を上げた。算数と国語のチャレンジ学習の実践でも県教育長より表彰された。閉校式・旅立ちの会では、坂本小最後の9名が校歌や愛唱歌などを大勢の地域の皆さんとともに歌ったり、先輩とマーチングを披露したりして感謝の気持ちを表すとともに、未来に向かってしっかり歩み出そうとしている姿を見ていただいた。子どもたちのけなげな姿に、会場は寂しさの中にも希望を見いだし励まされた。

甘楽町立秋畑小学校の閉校

甘楽町立秋畑小学校　(前)校長　**池田　隆郎**

1　はじめに

本校は甘楽町南西の旧秋畑村の中心、稲含山地の中腹に位置する。校区は平成10年度「美しい日本景観コンテスト」で最高賞を受賞したことがあるほど、景観に優れ落ち着いた雰囲気の山村地域である。旧秋畑村の唯一の小学校であり、昭和20年には最大児童数の687名であったが、急激な過疎化の波には勝てず、平成24年には21名となり、閉校の道を歩むこととなった。住民は秋畑小学校に愛着を持ち廃校を非常に惜しんでいる。閉校に当たっても最後まで学校教育に協力的であった。このことは地域を挙げて閉校記念行事の実施、記念アルバムや記念誌作り、閉校記念碑作りなどが全てが協力的に行われていることにも表れている。

2　学校の沿革

年　度	学校のあゆみ	地域や社会の情勢
明治 7年	**秋畑学校創立(養覚寺)**	明治 5年　富岡製糸操業開始
8年	那須学校　稲含山高村寺	明治 9年　群馬県誕生
昭和16年	秋畑国民学校と改稱（同那須分校）	昭和16年　太平洋戦争
22年	秋畑小学校と改稱　秋畑中学校設置	昭和20年　終戦
27年	県へき地教育研究会開催(分校)分校50周年	昭和25年　北甘楽郡は甘楽郡となる
30年	小幡町と合併 町立になる　分校校舎建設	昭和33年　東京タワー完成
34年	町村合併により甘楽町立秋畑小学校となる	昭和34年　皇太子ご成婚
36年	県へき地教育研究会開催(分校)	昭和39年　東京オリンピック
40年	完全給食実施、　校舎裏にスケート場設置	昭和54年　群馬サファリオープン
50年	開校100周年記念式典　校歌発表会開催	平成 5年　上越自動車道開通
51年	給食センター設置	平成22年　隣接の甘楽三中が閉校
54年	新校舎落成 式典開催　校章・校旗新調	
62年	緑の少年団結成　愛鳥モデル校指定	
平成 2年	親子20分間読書運動県指定・発表会	
7年	文部省へき地教育研究指定本発表	
18年	へき地教育研究大会　へき地理科開催	
平成25年	閉校式　記念植樹 タイムカプセルを埋設	
3月	富岡吹奏楽団「お別れコンサート」	
	閉校　在校児童14名が小幡小に転入	「閉校時の全児童」

3　おわりに

秋畑小学校の教育の特色は小規模校のよさを最大限に生かし、地域密着の教育実践を伝統的に続けてきたことにある。教育活動の代表的な取り組みを、記念に列挙します。

「コンピラ山の芽欠作業(公園の下草刈り)、雄川「日本名水百選」の清掃活動、畑の先生「地域古老」の指導によるそば作りやそば打ち体験、親子読書やボランティア読み聞かせ活動、触れ合い朝礼の定着、これらの活動を二年前に閉校した甘楽第三中学校と協力して共同で行ってきた。

三中が閉校し本校の閉校も現実的となったここ数年間は、統合先の小幡小学校や甘楽第二中学校との連携を強めた。同じ中学校に進学する三校で、「がんばろう！　育てよう！　九年間で！」と題した行動目標一覧表を作成して、三校で同一歩調で生活習慣や学習習慣の指導をした。

閉校に際し、子ども達とともに自分の学校に誇りを持ち、胸を張って行動したと自負している。

中之条町立伊参小学校の閉校

中之条町立伊参小学校　（前）校長　**澤野　尚人**

1　はじめに

本校は、中之条町の中心部より北に５ｋｍほど上った山間に位置しています。明治６年の開校以来、伊参地区の子どもたちの教育にあたり、多くの卒業生が巣立っていきました。児童数の変遷をみると、現在地に校舎が建築された昭和13年は557名、分校統合が整った昭和45年は235名、現在の校舎が建築された平成４年は140名でした。その後も児童数は減少し、平成24年度は41名となりました。開校以来139年の長い歴史と輝かしい伝統を刻んだ本校ですが、平成24年度をもって、地域の人々に惜しまれつつ閉校しました。

2　学校の沿革

年	主　な　で　き　ご　と
明治６年	岩本「清滝寺」に、「岩本学校」として開校する。
明治17年	和利学校（五反田村）は第１分校、蟻川分校は第２分校となる。
明治19年	吾妻第十八尋常小学校と改称する。
明治23年	伊参尋常小学校と改称し、五反田分校、蟻川分校を置く。
明治26年	原岩本尋常小学校と改称し、分校は独立して五反田・蟻川尋常小学校となる。
昭和13年	現在地に伊参尋常高等小学校が設置され、岩本・五反田・蟻川に分校を置く。
昭和22年	伊参村立伊参小学校となる。
昭和30年	町村合併により、中之条町立伊参小学校となる。
昭和41年	中之条町立第四小学校と改称する。
昭和45年	３つの分校が廃校となり、本校に統合される。
昭和48年	開校百周年記念式典及び記念事業を実施する。
昭和53年	嵩山緑の少年団結成される。
平成４年	新校舎竣工記念式典が挙行される。
平成17年	中之条町立伊参小学校と改称する。
平成25年	中之条小学校との統合により閉校式を実施。閉校記念行事、記念誌発行全戸配布。

3　特筆すべき活動、研究指定、表彰等

○緑の少年団活動・・・「花いっぱい運動」優良校（平成２年）、県環境教育賞「最優秀賞」（平成６年）、県花いっぱい運動「優秀賞」・全国花いっぱい運動「優良賞」（平成15年）他受賞

○読書推進活動・・・県立図書館指定「親子20分間読書運動」実践成果発表（昭和58・59年指定）

○道徳教育推進・・・文部省指定「道徳教育推進校」研究発表（平成2・3年指定）その研究実践により「才能開発実践教育賞」を受賞（平成４年）

○中之条高校との連携活動・・・県指定「みんなの専門高校プロジェクト推進事業」協力校として中之条高校との連携活動開始（平成15・16年度指定、連携活動は平成24年度まで継続）

○愛鳥モデル校・・・平成13年～16年、平成19年～24年に指定され、野鳥観察会等を実施

○映像教育・・・県映像教育推進事業協力校に指定され、映像教室等を実施（平成18・19年）

4　おわりに

全校児童で作詞した閉校記念ソングには「ずっと忘れないよ共に過ごした日々　未来を信じて伊参小ありがとう」と歌われています。子どもたちが伊参小で身につけたことを中之条小学校においても存分に発揮して、新しい環境の中で、さらに大きく羽ばたいてくれることを心から願っています。

嬬恋村立東小学校の閉校

嬬恋村立東小学校　（前）校長　**地田　功一**

1　はじめに

本校は、明治６年、赤羽小学校として開校して以来、140年の歳月が流れ、そして、昭和22年の嬬恋村立東小学校への改称から66年が経過しました。そして、今年度（平成25年度）、鎌原小学校との統合による嬬恋村立東部小学校の開校にあたり、平成24年度をもって本校は閉校となりました。

2　沿革概要

歴史における校名の移り変わりでは、法令や規則等の改正に伴い、その時々、その時代を象徴する改称となってきました。明治期には赤羽小学校から三原小学校、三原尋常小学校、嬬恋東尋常高等小学校へと。さらに昭和期に入り、嬬恋村東国民学校、そして、現在の嬬恋村立東小学校と改称され、平成の時代の今日に至っています。

嬬恋村立東小学校の歴史を顧みると、これまで嬬恋村における中心的な、そして、嬬恋の人材育成における重要な教育機関であったことが明らかになります。

昭和27年度までは、嬬恋東小学校本校に加え、鎌原分校と今井分校、吾妻分校、石津分校の四つが設置され、その後、昭和44年度まで今井分校が、そして、昭和55年度まで鎌原分校が設置されてきました。併せて、昭和28年度から昭和40年度直前までの間、季節限定の冬季分校として、門貝分校と袋倉分校が開設されました。当時の児童数は一番多い時で682名（分校を含めると910名）、学級数は15学級（分校を含めると23学級）であったことが資料から読み取れます。閉校時の140名、７学級に比べ、児童数については５倍以上、学級数も２倍以上であったことがわかります。

この伝統と歴史ある素晴らしい学校を巣立った卒業生は8,000人を超え、これまで多くの著名人を輩出してきました。

嬬恋村立東小学校　校歌

一　緑の丘の学舎に
はてなき希望胸に抱き
いつも明るく朗らかに
足音高く歌おうよ
嬬恋東小学校

二　すんだ青空清い水
きたえよからだすこやかに
いつも正しく規律よく
力を合わせみがこうよ
嬬恋東小学校

三　吾妻川と浅間山
大きな大地のふところで
よく見よく聞き考えて
ねばりも強く学ぼうよ
嬬恋東小学校

3　おわりに

本校の教育活動の推進母体である東小学校校舎、そこに併設する体育館とプール。学校や児童の夢の実現、健やかな成長を静かに見つめる「雄飛の塔」、石碑「健体康心」、「幸の池」。四季折々の草花をはじめとする美しき自然の数々。学校を、児童を育ててくれた素晴らしき学習環境。そして、これまで大切に受け継がれてきたよき伝統。みんなに愛されてきた嬬恋村立東小学校が、ここに存在したことを決して忘れず、多くの人々の心に末永く生き続けて欲しいと願っています。

嬬恋村立鎌原小学校の閉校

嬬恋村立鎌原小学校　（前）校長　**山口　　廣**

1　はじめに

嬬恋村は教育施設の再編成が進んでいます。平成24年度には、東中学校と西中学校が統合し、嬬恋中学校としてスタートしました。本年度、鎌原小学校は東小学校と統合し、旧東中学校の校舎に東部小学校としてスタートしました。

ここに、鎌原小学校の閉校記念誌の私のあいさつを紹介します。この文から、へき地学校は地域の方々の強い思いによって支えられていることが感じていただければ幸いです。

2　閉校記念誌「嬬恋村立鎌原小学校の歴史」の校長あいさつ文より

嬬恋村立鎌原小学校閉校に寄せて

嬬恋村立鎌原小学校長　　山口　廣

昭和56年4月、嬬恋村立東小学校鎌原分校から独立し、嬬恋村立鎌原小学校が開校しました。開校した時には、今の校舎は建設中で、鎌原分校の場所で12月まで学習しました。

そして、平成57年1月12日に鎌原区民のおてんまで新校舎への引っ越しを行い、1月16日新校舎で３学期始業式を行うことができました。

鎌原分校からの独立にあたっては、鎌原区民方々の期待は大きく、その思いが玄関前の自拓碑に刻まれています。全文は次の通りです。

鎌原小学校の創立は、明治十一年五月二十八日、三原小学校鎌原支校として開校したことに始まる。

以来百五年、こうじあな学校、鎌原学校と称して地域の人々から親しまれ、嬬恋東小学校の分校として、ここに学んだ子どもたちはたくましく育ち、巣立っていった。

学校と地域は、共に手を携え教育環境の整備充実に堪えざる努力を傾注してきた。

昭和五十六年四月、地域住民の教育に対する英知と汗の結晶は、鎌原小学校として分校から独立、昭和五十七年一月、雄大な浅間山の裾野にひらけた美しい大自然の高原に、広大な校地を擁する白亜の殿堂が完成した。

このときにあたり我々は、相寄り相図って教育の源流を尋ね、未来を指向し、ここに学ぶ子どもたちが、自らきりひらくたくましい子をめざして、世界にはばたく日本人になることを願い、開校百五年を記念して、鎌原地区四良戸沢（とよの口）より産出の大自然石を運びこれを建立する。

昭和五十八年九月

嬬恋村立鎌原小学校

開校百五年記念事業実行委員会

この碑からも、鎌原区民の方々は、鎌原小学校を巣立つ子どもたちに大きな夢をもっていたことが読み取れます。

その後も学校に協力し、田畑を貸してくれ稲やとうもろこしを育てる手伝いをしてくれたり、地元の伝統・文化の学習には多くの方がゲストティーチャーとして指導してくれたりしてくれました。

その結果、32年間で640人の卒業生を送り出すことができました。鎌原区民の方々の思いが実り、現在、地元や全国各地で活躍しています。

最後になりますが、鎌原小学校を32年間温かく見守り、ご支援を賜りました皆様に心より感謝を申し上げるとともに、来年度開校する嬬恋村立東部小学校のご発展を祈念し、閉校にあたってのあいさつといたします。

Ⅱ　へき地の学校経営

21世紀をたくましく生きる六合っ子の育成

中之条町立六合小学校長　**冨沢　正**

1　学校の概要

本校のある中之条町六合地区は、県の北西部に位置し、地域の92%を山林と原野が占める。上信越高原国立公園の山々や地区の中央を流れる白砂川の渓谷沿いに、多くの温泉が湧出し、四季を通じて美しい景観を織りなしている。遠く縄文時代よりの人々の暮らしの痕跡が残り、山深い里へ逃れた落人の伝説、民話の数々、農道や山道の傍らに佇む道祖神。雄大な自然の中で自然と調和しながら固有の歴史と文化を育み今に伝えている地域にある。

過疎化の波に押されて、村に２校あった中学校が平成５年に１校に統合。平成20年には入山小学校と六合第一小学校を統合し、六合村立六合小学校が開校した。平成22年、中之条町との合併により、中之条町立六合小学校となった。児童数62名、５学級、教職員数15名（非常勤講師、学習支援員等を含む）の小さな学校である。

2　学校教育目標

ふるさとの自然と文化を愛し、21世紀をたくましく生きる六合っ子を育成する。

3　学校経営の方針

(1)　教職員個々の特性･能力を生かし、創造的･主体的･協動的に学校経営を進める。
(2)　学校課題を明確にし、改善に向けた積極的な経営の充実に努める。
(3)　確かな学力の定着を目指した、分かる授業づくりを進める。
(4)　「地域の中の学校」を基本に据えて、家庭・学校・地域が一体となった地域に開かれた教育活動を展開する。
(5)　小規模校の特徴や長所を生かした教育の実現を図るとともに､教育環境の整備・充実を図る。

4　実践の概要

(1)　「目的意識をもって伝える力を高める指導の工夫」･･･校内研修の取組

本校児童は、筋道を立てて話すこと、自分の考えを言葉や数、式、図などで表現すること、多様な考えで解決すること等が苦手であり、確かな学力を身に付ける上での課題である。本年度は、国語科における表現活動を中心に、「目的意識をもって伝える力を伸ばす指導の工夫」を校内研修のテーマに据えて実践を行っている。

一人一実践授業の取組から「授業の視点」を紹介する。

〈５学年〉討論の場面において、ワークシートを用いて友だちの考えを整理する活動を取り入れれば、自分の考えとの共通点や相違点が明確になり、自分の考えを深めることができるであろう。

〈３学年〉登場人物の様子の変化をつかませる場面で、根拠となる表現を見つけさせて理由を付けて討論させれば、自分の考えを深めることができるであろう。

〈４学年〉全体交流の場面において、自分の考えを書いた短冊を黒板に掲示する活動を取り入れれば、自分の考えとの共通点や相違点が明確になり、自分の考えを広げたり深めたりすることができるであろう。

〈６学年〉テレビ番組を作ろうという活動によって、話し手（番組出演者）、聞き手（視聴者）という立場を明確にすることで、話し手の意図や工夫に気づき、自分の意見を深めることができるであろう。

それぞれの授業で「目的意識をもたせる」「伝える力を高める」ための工夫を明確にした取組が行われた。授業研究会は少人数のグループに分かれ、授業の視点に沿って、成果と課題・改善策を協議した。その後の全体会では、改善策を中心に各班での話し合いの報告をし、今後に生かせる指導の工夫を確認している。

(2)　「世界に一つだけの」・・・誕生日集会活動

小さな学校のよさを生かそうと、毎月１回「誕生日集会」を行っている。企画・運営は計画委員会である。

活動のめあては、「将来の夢や希望などを語り、児童一人一人に存在感を味わわせる。」「大勢の前で自己表現をすることや友だちの発表を聞くことを通して、自他を大切にする心を育てる。」「集団の一員としての自覚と仲間意識を高める。」の三つである。朝活動の時間を使い、なかよし広場（集会室）で行っている。花のアーチをくぐって入場し、顔写真が入った花のカードを掲げながら自己紹介をする。内容は、名前、生年月日、大きくなったら、将来の夢（理由も）等。全員からのお祝いの言葉、歌、計画委員が考えたゲームへと続く。

児童一人一人が未来を担うかけがいのない存在であることを自覚したり、自己肯定感・有用感が育まれたり、異学年集団の温かいふれあいの場となる活動になっている。

(3)　「地域に根ざした活動」・・・野反湖キャンプ

自分たちの住む六合地区のすばらしさを体験させたいと、以下の四つをめあてにした「野反湖キャンプ」を実施している。「団体活動を通して、リーダーシップの育成、規律を守ることの重要性と協調性を養う。」「緑の少年団の趣旨『緑を愛し、緑を守り、緑を育てる心』を養う。」「六合の自然の豊かさや自然を大切にしようとする心情を育てる。」「野外で充実した活動を体験させ、たくましい心身を育てる。」

一泊二日の日程で４学年～６学年の児童が参加した。異学年の交流を重んじ、上級学年が経験を生かし、リーダーシップを発揮する機会を設定し、下級学年を助けながら体験活動を行う。また、六合山岳会の応援を受けて、湖周辺の八間山・エビ山・三壁山（３年間で一巡り）に登る体験、キャンプファイヤー・オリエンテーション等の屋外体験を通して、六合の自然の豊かさを実感し、郷土のよさを再認識する行事になっている。

５　おわりに

「たくましい六合っ子を育てる」という学校教育目標に迫り、達成する教育活動を今後も行っていきたい。過疎化が進む小規模校であるからこそ、少人数であることの利点を生かし、地域に根ざした学校経営を進めていきたい。また、地域にあるこども園・中学校との連携・協力も必要不可欠である。行事はもちろん、学びの一貫した指導についても取り組みたい。吾妻郡内の小中学校で統合が進んでいる。今年度六合地区にも「学校検討委員会」が立ち上がり、意見集約が図られている。地域の人たちに支えられている学校の使命はますます大きくなっている。

小中連携・中高一貫を生かした教育の推進

沼田市立利根中学校長　**角田　和志**

1　はじめに

本校のある利根町（旧利根郡利根村）は、平成17年２月の市町村合併により、沼田市に編入した。四方を1300ｍから2400ｍの山々に囲まれ、町の南部は赤城山の北斜面になっている。町の西部には片品川が流れ、国天然記念物に指定されている吹割瀑・吹割渓や、川に沿って温泉街が広がる老神温泉などがあり、豊かな自然や温泉を求め、訪れる観光客も多い。

本校は利根町の追貝地区にあり、沼田市内中心地から北東へ20㎞ほど離れたところに位置している。昭和22年度に東村立東中学校として開校し、昭和31年度に利根村立東中学校、平成９年度に利根村立利根中学校となり、平成17年２月より現在にいたっている。

現在、生徒数90名で、特別支援学級を含め４学級のへき地小規模校である。生徒は３つの小学校（利根東小・平川小・利根西小）からほぼ同数ずつ入学している。全体的に素直で真面目な生徒が多く、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。また、校区内にある群馬県立尾瀬高等学校とは平成15年度より連携型中高一貫教育校として、片品村立片品中学校とともに連携を図っている。

2　学校教育目標

高い知性と豊かな心をもち、心身ともに健康で、強く逞しく生きる生徒を育成する。

3　学校経営方針

(1)　自らの職責を自覚し、全教職員参画による学校経営の充実に努める。
(2)　すべての生徒が仲間とともに楽しく学習や活動のできる魅力ある学校づくりに努める。
(3)　個々の希望実現に向けた充実したキャリア教育の推進に努める。

4　実践の概要

(1)　小中連携

本市においては小中連携・一貫教育に力を入れており、義務教育９年間の見通しの上に立って、その連続性、継続性、一貫性を重視した教育の推進を図るべく、小・中校種間の連携・接続の改善・強化を進めている。

本校と校区内の３小学校においても、「連携・一貫教育協議会」が設置されており、小・中学校の連携・協力の方策等を協議・推進することにより、児童・生徒の健全育成を図ることを目指している。具体的には、校長・教頭による連・貫教育推進本部の他、各校の教頭を部会長とした、「教育課程」「生徒指導」「特別支援教育」「保健」の４部会を設置し、それぞれの構成員を中心として具体的な連携を図っている。また、４部会での活動の他、日常的に授業を参観し合ったり、情報交換会を行ったりすることを通して、教職員間の共通理解を図っている。

さらに、児童生徒が交流する活動として、以下のような取組を行っている。

・中学校の合唱祭への小学生の参加

・移行学級における中学１年生による小学６年生へのピアサポートや部活動見学
・小学６年生を対象とした、中学校教員による英語ガイダンス授業
・特別支援学級の児童生徒同士の交流会　など

(2)　中高一貫

本校は片品村立片品中学校とともに、群馬県立尾瀬高等学校との連携型中高一貫教育を実施している。この連携型中高一貫教育は、中・高間の壁を低くして、お互いに協力し合いながら、教育課程の編成や教員・生徒間の交流等の連携を深める形で、ゆとりある学校生活の中で６年間の計画的・継続的な教育活動を展開し、個性や創造性を育むことを目指している。

この制度が始まりちょうど10年が経過したところである。昨年度までの平均では、約33％の卒業生が尾瀬高校に進学しているが、近年は進学先が多様化しており、やや減少傾向にある。

連携型中高一貫教育として、具体的には、以下のような取組を行っている。

○　基礎学力の向上
　ア　生徒の実態から尾瀬地域指導の重点を策定（各教科）及び授業改善
　イ　交流授業によるきめ細かな指導（ＴＴ・少人数指導）の実施
　ウ　尾瀬高との連携（教師と生徒の支援）による自然観察会、環境講座の実施
　エ　施設・設備の相互利用
○　生徒指導・進路指導の充実
　ア　情報交換や共通理解など意思疎通を図った生徒指導
　イ　６年間を見通した進路学習の実施
　ウ　「尾瀬地域学校保健委員会」や「少年の主張尾瀬大会」の実施
　エ　部活動での交流

(3)　小中高連携

昨年度まで、小・中、中・高についてはそれぞれ連携を深め、継続的な指導を行ってきたが、小・中・高が連携して活動するという場面はなかった。そこで、今年度は今まで小学生も参加していた本校の合唱祭に尾瀬高校の吹奏楽部にも参加してもらうこととした。音楽祭として、小・中・高の児童生徒が一堂に会することができたことは大きな一歩と捉えている。

今後もこうした活動を継続し、さらに発展させていくとともに、さらなる小中高連携を模索していくことで、継続的な教育を推進させていきたい。

〈尾瀬高生の演奏に耳を傾ける小中学生〉

5　おわりに

「地域の子どもは地域で育てる」と言われているが、同じ地域にある小学校・中学校・高等学校が継続的・組織的に子どもたちを指導していくことは、子どもたちをより多面的・総合的に理解し、成長を促していく上で、大変意義のあることと考えている。

中学校はその12年間の中核的な役割を担っており、小学校・高等学校との情報交換・共通理解に努めるとともに、地域の教育力を最大限に生かしながら、全教職員で強く逞しく生きる生徒の育成に努めていきたい。

Ⅲ　学習指導の改善に関する実践的な研究

自ら健康づくりに取り組む細野っ子の育成

～よりよい食習慣の確立を目指して～

安中市立細野小学校長　**長谷川　好江**

１　学校の概要

本地区は、安中市の北西部に位置し、東を九十九、西を坂本、北を倉渕に接し、学校はその中心の細野が原に位置する。地域には史跡「仙ヶ滝」、天然記念物「千本桜」「七色もみじ」、「福寿草の自生地」「ろうばいの郷」等があり、浅間山、妙義山を眺望する豊かな自然環境にある。

本年度は児童数65名、教職員数13名である。児童は明るく素直で思いやりがある。保護者の学校行事や PTA 活動への関心は高く、地域の教育力にも恵まれ、学校と家庭･地域が連携・協力して教育活動の充実に取り組んでいる。

２　主題設定の理由

これまで本校では、学校行事や教科、道徳、特別活動などさまざまな教育活動を通して健康課題解決に向けた取組を行ってきた。しかし、「児童は自分の健康課題を自分のこととして捉えられない」「児童一人一人に健康の保持増進のための実践力が十分育っていない」などの課題が見られた。こうした課題を踏まえ、現在だけでなく、生涯にわたって心身共に健康な生活を送るためには、自らの生活や健康を見つめ、健康課題に気づき、自ら考え、解決のための実践力を養うことが重要である。これらの課題解決のためには、学校での健康教育のさらなる改善･充実はもちろんのこと、生活基盤である家庭・地域と一体となって、児童の健康課題を解決するための方策を包括的に講じていく必要がある。

そこで、隣接する中学校、家庭・地域と連携・協力しながら、生涯にわたって健康に生きていくための基礎となる健康管理能力を育てていくことをねらい、研究主題を「自ら健康づくりに取り組む細野っ子の育成」と設定した。

また、健康に関わる本校児童の実態調査から、「好き嫌いはあまりない」「野菜を食べるようにしている」といった食事に関する項目も低い傾向が見られた。

以上のことから、児童自らが自分の食生活に目を向け、食の大切さを理解し、よりよい食生活をしていこうとする実践力を身に付けさせたいと考え、サブテーマを「よりよい食習慣の確立を目指して」とした。

３　実践の概要

(1)　研究の方針

①　児童自ら生活習慣を見直し、進んで健康づくりに取り組めるようにするために、児童の実態(課題）を把握し、課題解決に向けた指導法を工夫する。

②　組織的、計画的に健康教育を進められるように、食に関する指導の全体計画を活用する。

③　保護者が児童の実態を知り健康に対する意識を高められるようにするために、学校保健委員会や保護者を巻き込んだ健康教育を充実させる。

④　細野地区健康教育推進協議会を中心に家庭･地域と連携しながら啓発活動を工夫する。

(2)　授業実践

①　１年：学級活動「いただきますの気持ち」

「『いただきます』にはどんな気持ちが込められているかを知り、『ありがとう』の気持ちを伝えるための食事の仕方を考え、実践への意欲をもつ」ことをねらった。「いただきます」に込められた思いを考えさせたことで、児童は食べ物や調理してくれた人への感謝の気持ちを高めることができた。

②　３年：学級活動「給食を食べよう」

「給食にはどんな栄養があるかを知り、明日からの給食の食べ方を考え、自分のめあてを決め、実践できるようにすること」をねらった。担任と栄養教諭のTT指導は、児童がバランスよく食べることの大切さを理解するのに役立った。事後に給食の食べ具合を記入し家の人に目を通してもらうことで、家庭との連携を図ることができた。

③　５年：家庭科「ゆで野菜サラダの計画を立てよう」

「野菜の種類、栄養素とそのはたらきを知り、見た目やゆでることのよさを考えてゆで野菜サラダづくりの計画を立てる」ことをねらった。野菜の種類・栄養素とその働きについての説明やゆでた野菜を実際に提示したことは、野菜を摂取することの大切さを児童が理解する上で有効だった。

(3)　家庭・地域との連携

①　地域合同学校保健委員会

「しっかり食べよう　朝ごはん」をテーマに隣接する松井田北中学校と合同で地域合同学校保健委員会を開催した。朝食づくりの実演もおこない、簡単で栄養バランスのよい朝食を子どもたち自身が作ってみたいという意欲を高めることができた。

②　『テレビ消し　みんなでおはなし　楽しいごはん』３日間チャレンジ

昨年度、各家庭から募り決定したノーメディア標語『テレビ消し　みんなでおはなし　楽しいごはん』は、今年度の取組である食習慣の確立という点でもスローガンになるものであった。そこで、テレビを消して楽しく話しながら好き嫌いせずに残さず食べる『テレビ消し　みんなでおはなし　楽しいごはん』３日間チャレンジを実施した。

③　「夏休み　親子で料理をつくろう！」の取組と展示会

夏休みに家族と一緒に料理をつくる取組をおこなった。児童は、メニュー・材料・手順の確認や調理を家族と協力しておこなった。作ったメニュー、出来上がりの絵や写真、児童と保護者の感想を１枚の様子にまとめた。家庭での実践ということで保護者の関心も高く好評であった。各家庭の取組を夏休み作品展の際に展示し紹介した。

４　おわりに

授業実践や各部の活動を充実させながら、学校と家庭・地域が連携して健康教育を進めたことで、児童は食を中心に自分の生活を振り返ることができ、生活習慣の向上を図ることができた。今後も実践力の定着を図るために、家庭・地域と連携した健康教育を充実させていきたい。

Ⅳ　へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉　小学校

全職員で取り組む積極的で笑顔あふれる生徒指導

みなかみ町立藤原小学校長　**下田　洋一**

1　地域・学校の概要

本校は、平成20年４月１日に群馬県内で二例目となる藤原小学校と藤原中学校の併設校としてスタートした。小学校の校舎とは連絡通路を挟んで隣接しており、職員室は中学校側に併合され一つとなり、児童生徒用玄関も中学校校舎になった。中学校長が小学校長を兼務、小中に教頭をそれぞれ配置し、教員及び非常勤講師をもって児童・生徒の教育活動に当たっている。小学生18名、中学生７名の極小規模校である。校庭は中学校の校庭を使用し、平成21年度の耐震工事の際、小学校の遊具は中学校の校庭に新設されたため、管理運営上容易になった。

児童生徒は、バス通学をする４名以外は基本的に徒歩で通学している。学校は宝台樹スキー場へ登る道路の途中に位置しているため､通学路は１～２㎞を上り下りするため決して楽ではない。また、有害鳥獣（猿、熊等）の出没、観光客やスキー客との交通事故への心配も大である。

保護者や地域の方々は、地域の中の学校という意識が強く、学校行事等に対して大変協力的である。また、教職員以上に全員の児童・生徒の成育環境などを把握しており、地域全体で子どもを育てるという素地ができている。

2　生徒指導の方針

(1)　学校経営の方針

①　常に目的を意識した教育活動の推進

②　小中併設校の特色を活かした教育活動の推進

(2)　生徒指導の方針

学校経営方針を受け、特に**②「小中併設校の特色を活かした教育活動の推進」**に重点をおいた生徒指導を推進したいと考えた。また、本校の児童の実態は、極めて素直で、純朴であり、大きな問題行動等の心配はほとんどない。つまり、本校の目指すところは、問題行動の修正ではなく、児童の自己教育力を高めるような積極的な生徒指導であると言える。以上のような理由から、**全職員で取り組む積極的で笑顔あふれる生徒指導**を実現したいと考え、次のような方針を立てた。

◎笑顔に満ちた学校の創造・・・一人一人に寄り添った生徒指導

①　「報告・連絡・相談」を密にした指導体制の確立

②　スクールカウンセラーと連携した指導の推進

③　自己存在感や自己決定の場を明確にした教育活動の推進

3　具体的な内容と方法

(1)　「報告・連絡・相談」を密にした指導体制の確立

○　小学校、中学校別の校務分掌の見直し

(2)　スクールカウンセラーと連携した指導の推進

○　スクールカウンセラーとの面接の実施

○　スクールカウンセラーを講師としての職員研修

(3)　自己存在感や自己決定の場を明確にした教育活動の推進

○　自己存在感や自己決定の場を具体的に位置づけた授業の実践

○　自己存在感や自己決定の場を明確にした行事の実践

4　実践の概要

上記の具体的な内容と方法について、その取組の一例を以下に示す。

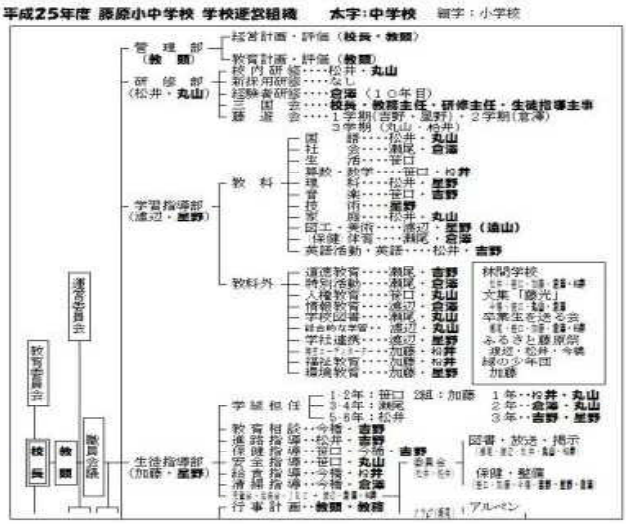
(1)　小学校、中学校別の校務分掌の見直し

本校は、併設校でありながら、校務分掌を別々に位置づけていた。全職員で取り組むためには分掌を統合し、小中で一つとすることが大切であると考え、分掌の統合を行った。

(2)　スクールカウンセラーとの面接の実施

生徒指導主任と教育相談担当が連携しスクールカウンセラーの来校日に児童との面接時間を具体的に位置づけた。

また、教員との面接や、１年生の保護者及び面接を希望する保護者との面接を実施している。



(3)　スクールカウンセラーを講師としての職員研修

児童理解をさらに推進するために、Ｃ＆Ｓ検査を実施した。そして、結果のとらえ方や児童一人一人の傾向など職員が分析・協議する中で児童への対応の仕方などスクールカウンセラーとして助言をしてもらった。

(4)　自己存在感や自己決定の場を具体的に位置づけた授業の実践

指導案に生徒指導上の留意点を明記するとともに、展開部のどの場面で自己存在感や自己決定の場を位置づけるのか明確に記述させるようにした。また、日々の授業の中では、週案にねらい・手立て、児童の反応(変容)を記述させ、１時間に少なくとも１回は自己存在感や自己決定の場を与えられるような工夫をするよう指示した。そして、教務主任に週案をチェックする際には、その視点でチェックするよう指示した。

(5)　自己存在感や自己決定の場を明確にした行事の実践

学校行事や児童会活動では、中学生と連携した取組を行っている。

例えば、運動会の応援合戦において、子どもたちが主体的にパフォーマンスを決定し、練習し、披露するようにしている。中学生がリーダーシップを発揮し、小学校１年生からそれぞれの役割や分担を具体的に与えている。保護者や地域の方々が見守る中すべての児童が自分の役割をしっかり果たす姿が見られた。全教職員は子どもたちの役割を把握しておき、学年や学校に関係なく賞賛や激励を機を逃さず与えるようにした。

5　おわりに

本校の生徒指導の最大の課題は、問題行動がないために生じる危機感のなさである。常に危機感をもつように指導してきたわけであるが、教員にとっては子どもを疑うことにつながるのではないかという抵抗感があるようである。そこで、本取組を実践することにより、少しずつではあるが、積極的な笑顔あふれる生徒指導が実践できるようになってきた。

〈２〉中学校

伝統をつなぐ生徒主体の生徒指導

高崎市立倉渕中学校長　**松本　操**

１　地域・学校・生徒の実態

本校は、高崎市の北西に位置し、烏川の清流と榛名山麓の豊かな森林に囲まれた静かな山間にある。生徒数88名、４学級（普通３，特支１）からなる。一昨年、町内３つの小学校が統合されたため１つの小学校から生徒が入学する。町内には、中学校（特地）と小学校（県準）とこども園（幼保一緒）があり、学校区は広く、生徒の多くは、８㎞程の距離を自転車通学している。

生徒は、素直であり、明るくのびのびと学習や部活動に取り組み、日々の学校生活を送っている。また、保護者や地域の方々も学校の教育活動に大変協力的である。

２　今年度の生徒指導の方針と努力点

(1)　方針

①　社会生活に必要な基礎的・基本的な生活習慣を身に付けさせるための指導・援助を意図的・計画的に実施していく。

②　学級・教科指導を通して、すべての生徒が自分の良さを発揮し、互いに認め合い、高め合う質の高い集団づくりに努める。

③　『生徒心得』を中心にすえた「中学生らしさ」を考えさせる指導計画をもとに、集団づくり（道徳・特活）と生活指導（直接指導）の両面から生徒に働きかけ、「自ら考え、正しく判断し、行動できる生徒の育成」に努める。

④　地域や保護者への対応については、「開かれた学校」づくりの観点から、絶えず意見を聞く姿勢を持つとともに、具体的に学校や学年の指導方針を伝達していく。

⑤　問題行動や事故が発生した際には、生徒保護・問題の把握・生徒理解・指導援助と、効率の良い指導体勢を編成し早期解決を図る。

(2)　努力点

◎　質の高い集団づくりを意図的に指導・援助する。

・　授業中における積極的な生徒指導
・　行事をとおした生徒理解と、集団の中で望ましい自己実現ができる指導・援助
・　『生徒心得』を活用し、生徒一人一人の意識の高揚を図る。

◎　社会生活に必要な基礎的、基本的な生活習慣の定着を図る。

・　生徒指導委員会等を活用し、生徒本人及び家庭環境等について職員の共通理解を図る。
・　家庭、地域、関係各機関との連携の強化を図る。
・　「開かれた学校」を目指して、多様なアプローチから生徒指導を充実させる。
・　「いじめ防止プログラム」に基づき、未然防止のためのアンケートを継続的に実施し、的確な指導と、特別活動等による働きかけを行う。

３　具体的な取組

(1)　「明るく元気でみんなが来たくなる倉渕中学校」を達成するため、生徒会を中心とした主体的な活動や心を揺らす体験的活動の場を設ける。

①　生徒会が掲げる「３本の柱」を本校の誇り・伝統・特色として継続していく。

ア　一人一楽器

各個人が、一つの楽器に３年間取り組み、学年全体で演奏するという、全校生徒による取り組みを通して、感動を実感させ、情操教育の充実を図る。

［一人一楽器：器楽の演奏］

イ　あいさつ

日常実施している伝統ある活動を継続し、みんなが気持ちよく学校生活が送れるよう生徒会役員が中心となってあいさつ運動を実施している。

ウ　無人購買

45年間続く本校独自の「無人購買」の伝統を継続していくという責任の重さ、互いを信頼し合うことで成り立っていることを実感させる。

②　校則はないが「生徒心得」を守って生活している。伝統の重さを継続し、生徒会が中心となって全校生徒に働きかけ、一人一人に意識を持たせる。

③　生徒総会での意見をまとめ「信頼」「あいさつ」「思いやり」の具体的な行動を掲げ、「いじめ根絶宣言」として取り組む。

④　縦割り班の活動（清掃・奉仕・行事等）をとおして、役割分担や責任、協力などの態度を育てる。

⑤　ビン・カン・古紙回収の実施。

生徒会が主体となり、毎年、夏休みに倉渕地域全部の家庭に協力を依頼し回収している。当日は、ＰＴＡの協力もあり一戸ずつを回って回収している。この活動も45年以上継続している伝統的な生徒会行事である。

(2)　地域とともに歩む学校づくり

生徒が地域へ出て活動する場を積極的に作り、教育活動への理解、協力を求める。

①　道祖神の里めぐりのボランティアガイド

今年で12回目となる「道祖神の里めぐり」は、毎年230名程の参加者があり、中学生が案内役を務めている。70名以上の生徒がボランティアガイドとして協力し、貴重な体験をしている。地域の良さを知ったり、思いやりの心を育てる機会となったりしている。

［道祖神ボランティアガイド］

②　地域社会での体験活動

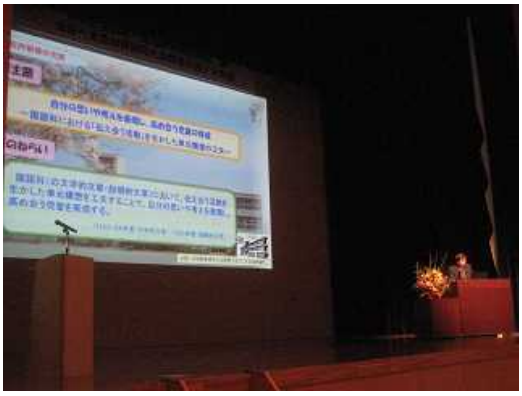
福祉体験ボランティア、ミヤマシジミ保護活動、森林体験、烏川ロードレース、倉渕やまなみ祭、成人式等に参加している。地域の方々に温かく見守られていること、活躍を期待されていることを実感し、地域社会とのつながりの大切さを知る。

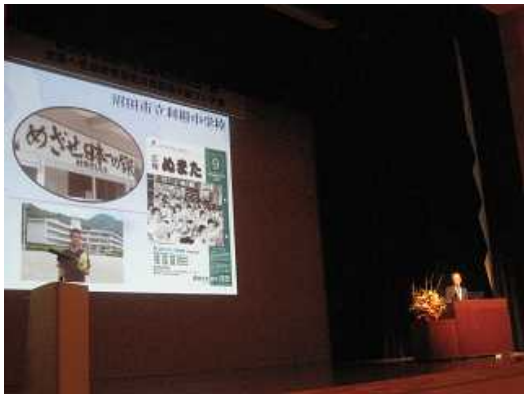
③　家庭、地域社会、関係諸機関との連携強化

倉渕地区『子どもの発達と学びをつなぐ15年間』（生活・学習・思いやり）のガイドラインの作成と実践。こども園（幼・保）、小学校、中学校の１５年間の子どもの発達と学びを見通すことで効果的な指導が行えるようにし､小１プロブレムや中１ギャップの解消を図る。

第　２　部

へき地学校教員研修のあゆみ





全国へき地教育研究大会群馬大会プレ大会

Ⅰ　平成25年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長
沼田市立利根中学校長　**角田　和志**

１　平成25年度のへき地学校教育

平成25年度の県内へき地学校は、休校中の２校を含め46校、児童生徒数3,742名、教職員数545名である。へき地学校の児童生徒の占める割合は県内全体の2.3％で、昨年度と比べると学校数は４校減、児童生徒数は192名の減、教職員は39名減員した。昨年度までに引き続き、各地区での学校統合が行われ、学校数・児童生徒数・教職員数とも大きく減少した。児童生徒数が少なく、教育活動が危ぶまれるため、今後も、学校統合が進む状況があり、学校数・児童生徒数、教職員数の減少は避けることができないだろう。このような状況の中、へき地教育連盟としては、へき地学校の小規模の利点や、地域との密接な連携を生かし、子どもたちに「生きる力」を身に付ける教育、個に応じた教育、豊かでたくましい心を育てる教育を推進してきた。

２　活動方針

(1)　研究主題　「ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く心豊かな子どもの育成」

(2)　活動方針

①　本連盟は、県教育委員会、市町村教育委員会、へき地教育振興会等と連携・協力を密にし、へき地教育の充実・発展に努める。

②　本連盟に総務・調査・研究部を置き、広報活動・研究事業の推進、研究成果の収録・発行等を実施する。

③　本連盟は諸活動を通して、へき地学校教職員の連携・親睦、指導力の向上、教育の諸条件改善に努め、へき地教育の一層の充実を図る。

(3)　活動内容

①　へき地関係教育諸情報の伝達及びへき地教育についての理解を深める広報「県へき連」を発行する。

②　へき地教育ブロック別実践研究集会等を開催し、研究実践を深め、へき地教育に携わる教職員の資質向上を図る。

③　へき地教育研究大会を県教育委員会及び県へき地教育振興会と共同開催し、へき地学校における経営・指導上の諸課題について研究協議し、へき地教育の充実・振興に資する。

④　県教育委員会及び県へき地教育振興会と連携・協力し、へき地教育の諸課題と研究実践を収録した「板木」を継続発行し、へき地教育の一層の充実と発展に資する。

⑤　平成26年度第63回全国へき地教育研究大会群馬大会の開催に向け、実行委員会を組織し準備を進めるとともに、プレ大会を行い運営・内容の確認等を行う。

３　研究・研修の概要

(1)　へき地教育ブロック別実践研究集会の開催

○　Ａブロック（前橋・高崎・安中・多野・甘楽）　８月５日(月)：講演会、現地研修会

○　Ｂブロック（吾妻）　８月７日(水)：全国へき地教育研究大会報告、講演会

○　Ｃブロック（利根・沼田・渋川）　８月９日(金)：講演会、現地研修会

(2)　第62回全国へき地教育研究大会三重大会への参加　11月７日(木)～８日(金)　13名参加

(3)　第62回群馬県へき地教育研究大会（兼　全国へき地教育研究大会群馬大会プレ大会）
11月14日(木)　Ｃブロック開催　みなかみ町カルチャーセンター

(4)　広報「県へき連」第73号・74号の発行、群馬県へき地教育研究資料「板木」第62集の発行

Ⅱ　第62回 群馬県へき地教育研究大会

〈1〉 概要

1　趣　旨　○　へき地学校の経営実践や授業実践についての研究協議を通して、群馬県へき地教育の改善・充実に資する。

○　平成26年度に開催する「全国へき地教育研究大会群馬大会」のプレ大会として位置づけ、概要の把握並びに運営面の点検等を行う。

2　大会テーマ　ふるさとのよさを生かし、社会で通用する力をもった子どもの育成
～へき地・小規模校の特性を生かし、地域との関わり方や学習活動の工夫を通して～

3　期　日　平成25年11月14日（木）

4　会　場　みなかみ町カルチャーセンター

5　日　程

9:30　9:50　10:20　10:50　12:00　13:00　13:30　14:10　15:50

受付	開会行事	全 体 会	班別研究協議	昼　食 休　憩	プレ大会①	プレ大会②	プレ大会③	閉会行事
		・全へき連、関ブロ、県へき連等	・小学校Ⅰ班 ・小学校Ⅱ班 ・中学校班		・概要説明	・全体会シミュレーション	・H26分科会（授業校）の構想発表	

10:40　14:00　16:00

6　班別研究協議

	司　会	提　案	記　録	世話係	指導助言	場所
小学校Ⅰ班	利根:大河原小 校長　遠藤由理子	沼田：多那小 校長　狩野俊丈	渋川：南雲小 校長　西山和子	利根:武尊根小 校長　片山雅資	利根教育事務所 指導主事　佐々木　孝	会議室（1）
小学校Ⅱ班	吾妻：東部小 校長　地田功一	吾妻：北軽井沢小 校長　高橋通泰	吾妻：草津小 校長　埴田栄一	吾妻：六合小 校長　冨沢　正	吾妻教育事務所 指導主事　佐藤三枝子	会議室（2）
中学校	多野：中里中 校長　新井俊幸	多野：上野中 校長　飯出哲夫	甘楽：南牧中 校長　並木伸一	安中：松井田北中 校長　今井典幸	西部教育事務所 指導主事　清水さとみ	小会議室

7　プレ大会

(1)　全国大会概要説明　　平成26年度全へき研究大会群馬大会研究部長　　飯出　哲夫

(2)　全体会シミュレーション　平成26年度全へき研究大会群馬大会副実行委員長　今井　典幸

(3)　分科会（授業校）の構想発表

	学　　校	研　究　主　題
A	高崎市立宮沢小学校	自らの考えを言葉を用いて分かりやすく伝え合うことができる児童の育成
B	上野村立上野中学校	主体的に学ぶことのできる生徒の育成
C	高山村立高山小学校	自分の思いや考えをもち、豊かに学び合う児童の育成
D	東吾妻町立坂上小学校	深く考え、よく学ぶ児童の育成
E	嬬恋村立東部小学校	互いに認め合い、高め合える児童の育成
F	長野原町立応桑小学校	ふるさとのよさを生かし自ら学ぶ心豊かな児童の育成
G	中之条町立六合中学校	自らの考えをもち積極的に表現することのできる生徒の育成
H	昭和村立大河原小学校	自分の思いや考えを表現し、高め合う児童の育成
I	沼田市立利根中学校	自他のよさを認め合える生徒の育成

〈２〉 提案要旨

《小学校１班》

生きる力を育む小中連携・一貫教育

～小中併設校のよさ・地域との連携を通して～

沼田市立多那小学校長　**狩野 俊丈**

１　学校の概要

本校は赤城山北面丘陵地にある野菜作りが盛んな農村地区にある。本校は小学生63名中学生24名の小規模の小中併設校である。中学校長が小学校長を兼務、小中にそれぞれ教頭を配置している。校舎･校庭・体育館など小中で共有している。保護者や地域の方々は、地域の学校という意識が高く、多那校と呼んで、様々な教育活動に協力的である。

２　実践の概要

(1)　研究主題設定の理由

小中併設のよさを生かすと共に少人数によるデメリットを補い、地域の教育力の活用も視野に入れて学校課題の解決に向かえるよう本主題を設定した。

(2)　実践の内容

①　校内研修

多那小　伝え合う力を高める話し合い活動の指導の工夫～よりよい考えを求める活動への支援を通して～

多那中　基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒の育成～生徒の表現力を育てる工夫を通して～

小中の連携を図り、めざす方向性や育てたい資質能力を揃えることで共通した学校課題解決へ向けて校内研修を充実させた。

②　小中一貫教育推進の組織と具体的な実践内容

校内研修とは別に小中連貫教育協議会を定期的に開催し、道徳部会・特別活動部会・総合部会・外国語部会の４部会で小中連携一貫教育の推進を行った。無理無駄のない効果のある連携した取組を洗い出し、諸計画の作成実施評価を行った。

・授業や家庭学習での系統的な学習習慣の育成
・系統的な生活習慣の育成
・学校評価会議の組織と流れ
・小中相互乗り入れ型学級担任制　兼務発令による小中教職員の交流
・児童生徒交流　～自己有用感を育む縦割り活動～
・系統的な学習計画づくり「総合的な学習の時間」「キャリア教育」

③　地域の教育力の活用

「多那大好き！ふるさと学習」～郷科カリキュラム構想～を中心に地域の教育力を各教育活動へ活用した。

３　まとめと今後の課題

様々な教育活動やそれらの運営課程について、より効果が得られるよう評価をしながら各活動を見直し改善してきた。児童生徒が主体となる授業づくりや、各教育活動に小中併設校のよさを生かすことで、自信をもって意欲的に活動する児童生徒の姿が多く見られてきている。また、地域の教育力の活用では、地域との様々な団体との交流を通して地域を愛する心の醸成が図られてきている。本校の児童生徒数もこれからさらに減少していくことが予想される。小規模校のよさを生かしながら、本校全職員、保護者、地域の方々と手を携えて「生きる力」を育んでいきたい。

《小学校２班》

自他の大切さを認め合い　生き生きと活動する児童の育成

～人権教育を基盤とした学校づくりを通して～

長野原町立北軽井沢小学校長　**高橋　通泰**

１　学校の概要

本校は浅間山の北嶺に広がる長野原町北軽井沢にあり、標高1,100ｍの高原地帯にある。昭和初期に避暑地として開発され、戦後は酪農を中心として開拓が進み、高原野菜の生産も盛んに行われるようになった。５月の連休から紅葉の季節までは観光客で賑わう。本校はこのような観光地と開拓地という両極端の条件の中にあり、保護者は北軽井沢以外からの転入者も多い。児童数96名、７学級（特支援１）の小規模校である。平成24・25年度は文部科学省より人権教育研究指定校として委託を受け、人権教育を基盤として教育活動の充実に取り組んでいる。

２　実践の概要

(1)　学級集団づくり（Ｑ－Ｕの活用）

小規模校においては人間関係が固定化しがちで、緊密な関係が時にはマイナスの要因となる。本校では昨年度より年２回Ｑ－Ｕを実施し、自分に自信が持てない児童や友達との関わりが上手くいかない児童に対する支援・指導などを全職員で検討することにより、具体的な対応（ＳＧＥ、ＳＳＴの工夫等）に結びつけることが出来るようになってきた。

(2)　縦割り活動など行事の見直しと充実

本校では以前から全校児童が縦割りで一緒に活動する機会が多くあった。昨年度からは、人権教育で育てたい能力・態度から各行事を見直すことで、行事のねらいがより明確になった。また、人権教育と関連させた集会活動の充実を図った。今年度は、いじめ防止活動に関連して「北軽小あったかハート宣言」を行い、児童会が中心となった活動を実践している。

(3)　授業づくり

学び合いを取り入れた授業づくりを目指し、学び合いの過程（考えを持つ→伝える→聞く→振り返る）を意識した授業を実践した。また、人権教育に視点を当てた授業を行う際に、指導案に次の２点を位置付けた。まず、「人権教育とのかかわり」を具体的に記し、次に、これを本時の学習の「人権教育の視点」として明記した。

(4)　学習・生活習慣づくり（家庭との連携、啓発）

- 人権感覚アンケート（保護者・教職員）の年２回実施
- あさまっ子学習ルールの作成と生活リズム調査の実施
- 啓発活動の実施（ＳＧＥやＳＳＴを取り入れた授業公開、人権講演会、人権だより　など）

３　まとめと今後の課題

- 日常の観察やＱ－Ｕを基に児童の実態を把握し、学級づくりを行ったことにより、Ｑ－Ｕでの学級に対する満足度が増し、学級のまとまりや自己肯定感の高まりにつなげることができた。
- ねらいをもって異学年交流を行ったことにより、児童会活動で堂々と表現する子どもの姿や下級生に優しく接する姿が見られるようになってきた。
- 「学び合い」の過程を工夫することにより、自分の考え方だけでなく、いろいろな考え方があることに気付き、お互いの考えを尊重しながら学習する児童が増えた。
- 人権教育を基盤として教育活動の充実を図ってきたが、児童の学校生活の大部分を占める授業の改善は不可欠である。これまで取り組んできた「学び合い」や授業研究会のもち方を含め、今後も授業改善に努めていく必要がある。

≪中学校班≫

「郷土に誇りを持ち、たくましく生きる力を持つ生徒の育成」を目指した学校経営

上野村立上野中学校長　**飯出　哲夫**

1　学校の概要

本校は、昭和56年４月１日、旧上野西中学校 と旧上野東中学校が統合し、開校33年目を迎えたへき地２級の学校である。生徒数は漸減の傾向にあり、平成４年に開園した「山のふるさと合宿：かじかの里学園」が、生徒数減少の一定の歯止めとなっている。現在、男子４名、女子３名、計７名の生徒が、学園から通学している。本村の学校教育にかける熱意は大きく、中学校３年生全員のニュージーランド研修、給食費無償などの村当局の施策や、地域、ＰＴＡ等の物心両面にわたる協力を得ながら、学校教育を進めるという恵まれた環境にある。

2　実践の概要

(1)　研究主題設定の理由

全職員で、ＳＷＯＴ分析を行い、上野中学校の生徒の実態をつかんだ。長所は、「まじめ、素直、優しい、言われたことはきちんとできる」など。課題は、「向上心・意欲が低い、打たれ弱い、自信が持てない」など。そこで、良さを伸ばし、課題を克服するために、師弟同行のもと「学校行事を通して生徒を鍛える」という方針を立て、様々な実践を行った。また、校内研修で「学びあい活動の工夫を通して」をテーマに実践し、「学びあい活動」「表現力の向上」を意識した授業づくりを行っている。

(2)　実践の内容

①　東京体験の日程の見直し　　②　藤岡・多野駅伝大会への参加

③　上野村体育祭での「上中ソーラン」の披露

④　文化祭の開催（ H24年度からは、藤岡北中学校の有志の合唱団が友情出演）

⑤　藤岡北中学校との交流（H24年度からの取組､大規模校で１日生活）

⑥　その他の取組　　○「自分で作る、お弁当の日」の実施（H24年度末～）

○「いい歯の日」の実施　　○ノーメディアタイム・ディの実施

⑦　校内研修　「たくましく生きる力を持つ生徒の育成」のために、日々の授業を大切に、生徒の学力の向上と教師の指導力の向上を目指し校内研修に取り組んでいる。特徴的な取組としては、　○「学びあい活動」「表現力の向上」を意識した授業づくり　○「一人１研究授業の実施（リレー方式」～全員の授業を指導主事の先生に指導・助言をいただく～　○指導案を全員で検討　○ワークショップ型の授業研究会　などがあげられる。

3　まとめと今後の課題

＜成果＞・コミュニケーション能力が高まってきた。　・みんなの前で発表するのが平気になってきた。　・一部だがリーダーも育ってきた。　・大会に行っても物おじしなくなった。

＜課題＞・まだ周りを見て行動するところがある。(主体性が弱い・自信がない)

・向上心、意欲がまだまだ。打たれ弱い点もまだ見られる。

＜校内研修の課題、これからの取組＞

・「学びあいたい」「教えあいたい」「高めたい」と生徒が思える課題設定、環境整備に取り組む。　・様々な生徒が主役になれる場の設定。　・上位群を伸ばす。　・「分かった」「向上できた」と思わせる授業の仕掛けづくり。

〈３〉　第63回全国へき地教育研究大会群馬大会・プレ大会
《概要説明》

全国へき地教育研究大会群馬大会研究部長　**飯出　哲夫**

平成25年11月７日(木)～８日(金)の２日間にわたって開催された、第62回全国へき地教育研究大会三重大会に参加して、写真を中心に全国大会の概要を説明した。各会場等で気のついたことを中心に書いてみたい。

第１日（11月７日）「全体会・分散会」

全体会場では、受付の様子、全へき連の図書等の販売、特産品の販売ブースなどの概要を説明した。特に、受付は所属ブロック（群馬県の場合は、関東ブロック）と他のブロックの受付が準備されていた。また、当日参加の方のことを考えると、高崎駅から全体会会場までの道案内の人員も必要になると思う。

全体会の中では、中央にスクリーンは用意されていたが、全体会の中で登壇する方をすべて映すということはなく、三重大会のシンボルマークがずっと映っていた。群馬大会も同様の方式であれば、全体会終了後に音楽センターのスクリーンを移動させることで対応できると思う。三重県の基調報告は分科会会場の紹介が中心で、予定時間をオーバーしていた。分科会会場の紹介はせず、基調報告を手際よく行った方がよいと思う。群馬大会の場合、全体会場と分散会場が離れているため、全体会を予定通りに終了させることが重要である。

第２日（11月８日）「授業公開・分科会」

２日目は、Ｆ分科会：大紀町立大紀中学校に参加した。全体会場の体育館の設営状況、開会式、研究発表及び研究協議、閉会式などの様子など参考になった。分科会会場の立て看板、ステージ上横看板等、一括注文をして各分科会場に配布するか、各分科会場ごとにまかせるか、会計との協議が必要になってくると思う。また、会場校の湯茶等を含めた接待も考えていく必要がある。

《開会式・全体会のシミュレーション》

全国へき地教育研究大会群馬大会副実行委員長　**今井　典幸**

(1)　次第(予定時刻)及び担当者について

①　開会式について(進行：Ａブロックの実行副委員長)

ア　開式の言葉(９：20)：大会実行委員長

イ　国歌・へき地教師の歌斉唱：指揮Ａブロック教諭　伴奏：Ａブロック教諭

ウ　主催者挨拶(９：32)

○　文部科学省関係者　　○　群馬県教育委員会教育長

○　全国へき地教育連盟会長　　○　群馬県へき地教育振興会長

エ　来賓祝辞及び来賓紹介(９：48)

○　群馬県知事　様　　○　高崎市長　様　○　来賓紹介：Ｂブロックの実行副委員長

オ　祝電披露(10：03)：実行委員(総務部長)

カ　閉式の言葉(10：06)：Ｂブロックの副実行委員長

②　休憩・全体会準備(10：10)

③　全体会について(進行：Ａブロックの副実行委員長)

ア　基調報告(10：25)

○　第８次長期５カ年研究推進計画の推進について：全国へき地教育連盟研究部長　様

○　全国へき地教育研究大会群馬大会の基調報告：群馬県へき地教育連盟研究部長

イ　記念講演(10：40)

○　講演：荻原　健司　氏(予定)

○　講師紹介：実行委員(会計部副部長)　　○　花束贈呈：実行委員(会計部長)

ウ　次期開催県挨拶・紹介及び大会旗引き継ぎ(11：45)：熊本大会実行委員　様

エ　アトラクション(12：00)：高崎市立倉渕中学校生徒による吹奏楽

オ　閉会(12：20)：進行　連絡：実行委員(事務局長)

(2)　受付及び来賓等控室について

①　受付業務は、８：50～９：20の間とし、名簿確認後必要書類を渡す。

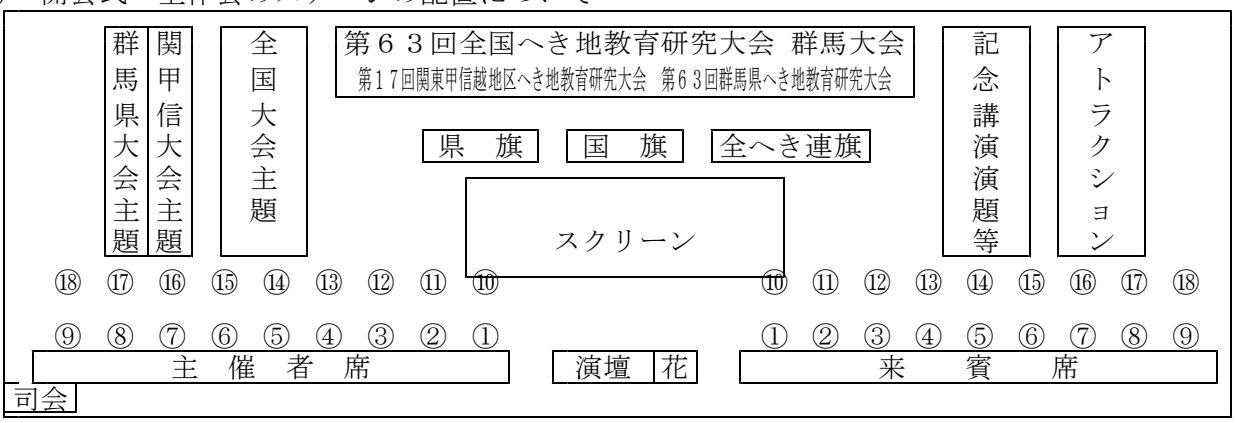
②　来賓、講師及び実行委員以外の大会役員の受付は、「楽屋入り口」にて行う。

③　一般参加者の受付は、ロビーで「九州・沖縄」「中国・四国」「北陸・東海」「東北・北海道」「東京」「山梨」「長野」「新潟」「群馬ＡＣ」「群馬Ｂ」の各グループに分けて行う。

④　来賓は「第２楽屋」に、講師は「第１楽屋Ａ」に、実行委員以外の大会役員は「第１楽屋ＢＣ」にそれぞれ案内し、控えていただく。

⑤　一般参加者は、受付後会場内の指定場所に着座する。

(3)　開会式・全体会のステージの配置について



《分科会構想》

Ａ分科会

自らの考えを言葉を用いて分かりやすく伝え合うことができる児童の育成

～各教科等における思考力を伸ばす言語活動の工夫に視点を当てて～

１　会場校　　高崎市立宮沢小学校〔７学級（特支１）　児童数56名〕

２　地域・学校の概要

本校は、榛名山南麓の標高360mの山間部に位置し、校区は、梅・梨・桃などの果樹栽培が盛んな地域である。昭和55年に榛名町立第六小学校西分校から独立して開校した。４月には毎年ＰＴＡによる鯉のぼり上げを行い、児童の健やかな成長を願っている。「全児童を全職員で育てる」を合い言葉にきめ細かな指導を推進している。合唱活動に伝統があり、「ＴＢＳ子ども音楽コンクール」への出場や「高崎市議会」での合唱披露などを行い「歌声の響く学校」を目指している。また、異学年集団によるファミリー活動を推進し、班ごとの計画を取り入れた集会や行事などを行っている。

学校教育目標は、「豊かな心をもち、自ら学ぶたくましい児童の育成」であり、具体目標として、「本気で勉強する子」、「思いやりのある子」、「心と体をきたえる子」、「進んではたらく子」を目指して教育活動に取り組んでいる。今年度は教育構想に、「児童に確かな学力を」、「教職員に実践力を」、「保護者に喜びを」を掲げて学校経営を推進している。児童が毎日楽しく学べるよう「**み**んななかよく」、「**や**さしい心で」、「**ざ**っそうのようにたくましく」、「**わ**らい声のあふれる」、「**小**学校」をキャッチフレーズに全職員で指導に取り組んでいる。

３　研究の概要

サツマイモの苗植え（ファミリー活動）

児童は明るくのびのびと学習し、体力テストでは、全国平均をほとんどの種目で上回っている。しかし、自分の思いや考えをわかりやすく相手に伝えることや困難なことに最後まで取り組もうとする姿勢に課題がみられる。また、学習には興味・関心をもって取り組むが、基礎学力の定着と、コミュニケーション能力に課題がみられる。

校内研修では、豊かな表現力の育成を目指し、各教科等における言語活動の充実に視点をあてて実践に取り組んでいる。言語活動についての研修を深め、授業改善のポイントを明確にして授業を行っている。自力解決と学び合いの場を設定し、思考、判断、表現する活動を導入することによって、主体的な話し合い活動ができるよう工夫している。

一人１研究授業を各教科等で実施し、ワークシートや発言のルールなどを工夫して、自分の考えを明確に伝えられるよう指導している。また、ペアやグループで意見を交流する場を設定したり、ＫＪ法を取り入れたりして、思考力や表現力を高めている。授業後には、言語活動に視点をあてた授業リフレクションやワールドカフェ方式による授業研究会を行い、次の授業改善に生かしている。

講師を招聘した研修では、昨年度は群馬大学の中村敦雄先生に４年生の国語「学級で話し合おう」の師範授業をしていただき、今年は鶴見大学の岩間正則先生に学習指導要領が目指す言語活動についてお話をしていただいた。また、「はばたく群馬の指導プラン」や「ソーシャルスキル教育」を生かした授業を行い、言語活動の充実に努めている。さらに、漢字・計算大会や音読・音楽発表、児童による読み聞かせなどを定期的に行い、基礎学力と表現力の向上に努めている。

全国大会の分科会では、研修テーマにそって本校の特色であるファミリー活動の異学年集団による話し合い活動（児童会活動）と思考力を高める言語活動の工夫に視点をあてた各教科等における指導を発表したいと考えている。少人数指導と地域の特色を生かした授業を構想している。

Ｂ分科会

主体的に学ぶことのできる生徒の育成

～「学び合い活動」の工夫を通して～

１　会場校　　上野村立上野中学校〔４学級（特支１）　生徒数42名〕

２　地域・学校の概要

上野村は、県南西部の端に位置し、西は長野県、南は埼玉県と県境を接している。林野率は、95％に近く平坦地は極めて少ない。人口は、約1300人で、群馬県で最も小さい自治体である。最近は、村のＩターン政策により人口の減少に歯止めがかかりつつある。

本校は、昭和56年４月、旧上野西中学校 と旧上野東中学校が統合し、上野中学校として発足し、開校33年目を迎えたへき地２級の学校である。生徒数は漸減の傾向にあり、平成４年に開園した「山のふるさと合宿：かじかの里学園」が、生徒数減少の一定の歯止めとなっている。現在、男子４名、女子３名、計７名の生徒が、学園から通学している。

本村の学校教育にかける熱意は大きく、中学校３年生全員のニュージーランド研修、給食費無償などの村当局の施策や地域、ＰＴＡ等の物心両面にわたる協力を得ながら、学校教育を進めるという恵まれた環境にある。

３　研究の概要

平成23年度当初に、全職員でSWOT分析を行い、生徒の長所と課題を洗いだした。課題としては、「言われたことはきちんとできるが、言われないとやらない」、「向上心や意欲が低い」、「打たれ弱く、自信をもてない生徒が多い」等が挙げられた。そこで、課題を解決すべく、「積み上げのある研修」を意識し、上記テーマに取り組んできた。これまでの研修を通して、様々な「学び合い活動の手法」が取り入れられるようになってきた。小規模校のよさ、生徒のよさを活かし、我々教職員が一人一人の子どもに「自分で考えてみたい」、「ぜひ話し合ってみたい」、「仲間と教え合いたい」と思わせる授業を提供し続けることで、生徒の課題改善につながると考えている。

具体的な手立ての一つとして、支援表の工夫を進めている。一人一人の生徒に自信を持たせられるよう、低位の生徒を引き上げる補充的な支援はもちろん、上位群をさらに伸ばす発展的な支援も盛り込んだ、よりきめ細かなものとなっている。また、へき地校共通の課題でもある、各教科一人体制のため、自校だけで研修を深めるのは容易ではない。そこで、教科の枠を超え、全員参加での指導案検討会と授業研究会の際には必ず指導主事の指導を受ける研修を進めてきた。また、同じ課題を抱えた多野郡４校の教職員が協力して、教科部会を実施したり、授業公開を積極的に行うことで授業力向上に努めている。

Ｃ分科会

自分の思いや考えをもち、豊かに学び合う児童の育成

～聴き合い　つながり合う　授業づくりを通して～

１　会場校　　高山村立高山小学校〔11学級（特支２）　児童数203名〕

２　地域・学校の概要

本校のある高山村は、群馬県の北西部にある吾妻郡の東北端の山間部に位置し、豊かな自然に恵まれ、米を中心として、こんにゃく・野菜・椎茸等の栽培が盛んである。しかし、経営者の高齢化、後継者不足が課題となっている。人口は3,954人、1,327戸、総面積64.16㎢で、尻高と中山の二大字で構成されている。尻高地区は、尻高人形や名久田教会等の文化財が多く、昔から文化的に進んだ地域であった。また、中山地区は、江戸時代は江戸と越後を結ぶ三国街道の宿場としてにぎわった。現在、４か所のゴルフ場をはじめ、リゾート施設の整備、福祉関係の専門学校や県立ぐんま天文台、いぶき会館等の文化教育施設がある。また、光環境条例により、上向きの光を制限し、きれいな星空は高山村の宝となっている。

本校は、村内の２つの小学校が統合し、昭和58年4月に開校した学校である。現在は、11学級、全校児童203名の学校で、児童は、明るく素直で、日々楽しく学校生活を送っている。豊かな自然に囲まれ地域や保護者のあたたかい協力を得て、楽しい学校、一人一人を大切にする学校、信頼される学校づくりに取り組んでいる。

３　研究の概要

本校の児童は、一村一校園の環境の中、幼稚園から中学校までほぼ固定化された交友関係で過ごしていく。そのため、馴れ合いから言葉を丁寧に使わなくても良しとしてしまうコミュニケーション力の弱さや、年齢が上がるにつれて、固定化された相互評価のために対人関係をうまく調整できない場面や発言する児童の固定化・学習意欲の低さ等の実態も見られる。そのような実態を踏まえ、発達段階に応じた児童一人一人の思いを聴き合う関係を築くことで、自分の思いや考えをもち、豊かに学び合う児童の育成を図りたい。聴き合い、支え合い、つながり合う授業づくりを繰り返し実践することにより、児童一人一人が安心して学び合う楽しさや喜びを味わえると考える。

(1)　研修の内容

①　聴き合い学び合う関係を築くこと

学びを豊かなものにするには、学びを支えてくれる仲間や教師がいて、分からなさも受け止めてもらえる安心感があることが必要であり、そのためには、適切な聴き合う関係づくりの構築が大切である。

・聴ける教師（受信を意識、「つなぐ」役割）・座席の工夫

・聴き合う関係づくりにおける目指す児童の姿

②　課題設定と学習形態を改善すること

提示する課題の質により、学び合いの質が決まってくる。教科書レベルの共有の課題と他者や道具の援助を介して達成できるジャンプの課題の設定を工夫する。また、課題と併せ、それに適した学習形態を工夫し、ペア、小グループ、全体での学び合いを展開し、一人一人の学びを保障していく。

・設定課題の工夫（共有の課題とジャンプの課題）・学び合いに適した学習形態の工夫

(2)　今後の研修

今後研修を進めるにあたり、地域の特性を十分に生かす工夫もしていきたい。学びは、子ども同士の学びだけにあるのではなく、地域の方々やもの等からも得るものは多く、地域のよさに気付きそれらを大事にしようとする心も育てていきたい。また、村の一貫教育として進めている、学びや生活の基盤としての「ことばの教育」や「学びと生活のやくそく」等との関連も図りつつ取り組んでいきたい。

Ｄ分科会

深く考え、よく学ぶ児童の育成

～気付き考え共に学ぶ指導の工夫を通して～

１　会場校　東吾妻町立坂上小学校　〔７学級（特支１）　児童数86名〕

２　地域・学校の概要

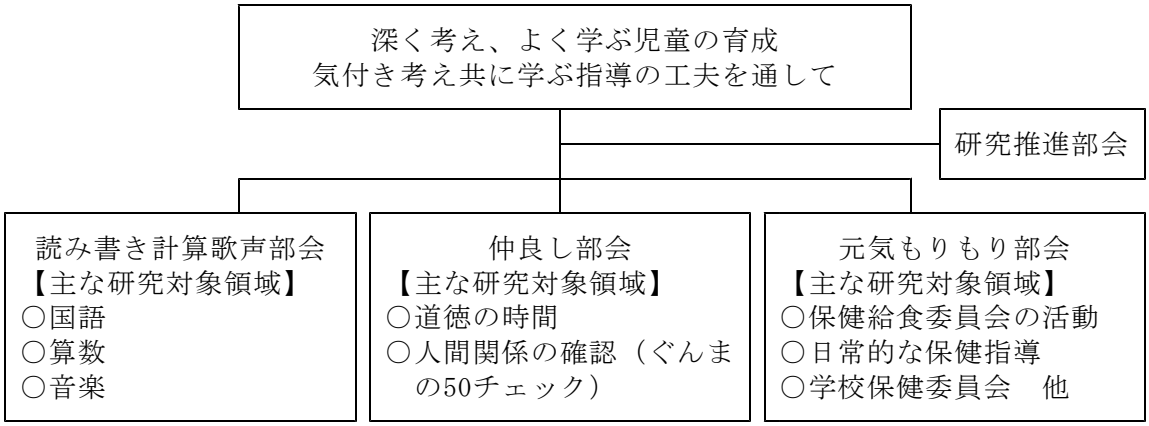
本校は山間部にあり、明治６年に開校した140年にわたる地域の教育と文化の歴史を有する学校である。８割近くの児童がスクールバスで通学しており、互いをよく知っている家族的な雰囲気を持っている。しかし、人間関係が固定化していたり、短い言葉で会話が成り立ってしまったりという面がある。地域の方々は子ども達と深く関わり、温かく見守っている様子が見られる。

３　研究の概要

(1)　研究の目標

児童の実態から、知・徳・体の３領域における指導方法の工夫を通して児童が気付き、考え、話し合い、行動できる資質能力を伸ばし、深く考え、よく学ぶ児童の育成を目指す。

(2)　研究推進体制



(3)　授業づくり、活動づくりの工夫

①　授業や活動への取組意欲を高める「めあて」の設定

授業や活動における児童が目指す目標を設定する。例えば、その授業で何を目指すのかを「めあて」として板書する。板書は、授業の導入から児童と共にめあてを確認して板書することもあれば、授業展開のなかで確認して板書することもある。また、授業の終末では、めあてに戻り、復習・確認を行う。

②　対話表現力を高め、思考を広げ深める「少人数による話し合い」

少人数による話し合いを効果的に行うことができるように、下記の５点を意識した授業づくりを行う。

・児童に自分の考えを書かせる。　・児童にグループ学習の約束を守らせる。
・教師が支援するグループを設定する。　・グループ学習の終了を判断する。
・グループの構成と座席を課題等に応じて柔軟に工夫する。

③　「気付き」「考え」「話し合い」「行動する」資質を高める学習ステージ

４つの学習場面の流れを一つの学習ステージとしてとらえ、意図的計画的な指導を行う。

Ｅ分科会

互いに認め合い、高め合える児童の育成

～地域を大切にした授業づくりの工夫を通して～

１　会場校　　嬬恋村立東部小学校　〔12学級（特支２）　児童数235名〕

２　地域・学校の概要

本校は嬬恋村の東部地域に位置し、今年度（平成25年度）に、嬬恋東小学校と鎌原小学校との統合により新設された学校である。統合したことで、これまで以上に学校区は広範囲となり、児童はスクールバス、列車、徒歩との３通りの通学方法になった。特に、スクールバスでの通学は、６方面からの通学であり、児童数の半数を超える。

統合初年度を歩みだした東部小学校では、統合前のそれぞれの歴史と伝統ある学校が、大切に培ってきたよき取組や実績を受け継ぎながら、「確かな学力を身に付けた、心身ともに健康な、人間性豊かな子どもの育成」に向け、豊かな自然環境を生かした、特色ある様々な教育活動に取り組んでいる。田植えやキャンプ等の地域の自然や人材を生かした自然体験活動をはじめ、東京都千代田区の小学校との交流活動はその一例である。

ところで、へき地教育における本校の実情は、学校規模や交通機関、地域の特殊事情等からの、一般的なへき地性は見られない。ましてや、へき地教育の特性となる「小規模」及び「複式学級」は存在しない。

３　研究の概要

へき地教育を進める上での大きな課題は、押さえるべき特性である「へき地性」をどのようにとらえるかである。

研修の推進にあたっては、児童の実態をはじめ、この「へき地性」を明確にするとともに、その「特性やよさ」「課題等」を授業づくりに位置づけたり、学習を支える背景としたりして、授業の充実を図っていきたいと考える。

(1)　主題設定について

統合により本校の学校規模は中規模化した。これまでの特定地域における顔見知りの小集団から、広範囲にわたるより大きな集団になったことからか、自分の考えや意見が上手く伝えられない児童が目につく。生きる力を育む上での本校の重要課題は、判断する力、表現する力、伝える力を身に付けることである。このようなことを受け、上記の研究主題及び副主題を設定した。

(2)　研修内容

○　実態調査及び実態把握

○　課題の明確化と分析

○　主な具体的実践

・　授業づくりの構想立案

・　授業づくり案の作成

・　授業づくりの構想に基づく授業実践

・　地域の特性やよさを生かした単元の絞り込み

嬬恋郷土資料館での学習（４年）

Ｆ分科会

ふるさとのよさを生かし自ら学ぶ心豊かな児童の育成

～くわっ子タイムの活動を生かして～

１　会場校　長野原町立応桑小学校　〔６学級　　児童数62名〕

２　地域・学校の概要

本校は、群馬県の北西、浅間山の北東約15ｋｍにある。長野原町の中央に位置し、標高950ｍの高原である。白菜やレタス、キャベツ、ズッキーニ、花豆栽培などが盛んな畑作中心の地帯である。専業農家もあるが、近くには、北軽井沢や草津温泉、川原湯温泉など観光地があり、観光地で働く保護者も多い。学区は、広いが、徒歩で通学している。人家がまばらなため、季節には、イノシシや熊が、通学路に出没することがある。

全校で62名の本校には、広さ2000㎡の広大な畑「親子ふれあい農園」があり、地域の方に協力していただきながら、農園活動を行っている。この農園では花豆、じゃがいも、トマトを、全校で栽培し、その他、各学級でも学級の特色を生かして様々なものを栽培している。そして、秋には、収穫に感謝し、地域の方を招いて収穫祭を行っている。（写真）

また、「桑の実学習」として、地域人材を活用した学習を行ったりＰＴＡや地域の方に読み聞かせに来ていただいたりと、その他にも様々な活動が行われている。

これらの地域連携学習は、「くわっ子タイム」と呼ばれ、本校の教育活動の中核になっている。

このように、協力的な地域や保護者と学校が連携して活動していく中、児童は一人一人が温かく見守られ、大切にされ、のびのびと育っている。

３　研究の概要

(1)　研究の仮説

- くわっ子タイムの活動を生かした学習を通して、ふるさとの地域の人々の願いやその良さに気付くことで、ふるさとに愛情をもちながら、それらを生かしていこうとする児童を育成することができるであろう。（研究課題③）
- くわっ子タイムの活動を生かした魅力ある教材に触れたり、誰もが積極的に授業に参加できたりする授業形態を工夫していくことで、興味・関心をもち、自ら主体的に学習に取り組む意欲を培うことができるであろう。（研究課題⑤）

(2)　研究の内容

- くわっ子タイムの活動と教科等（各教科・道徳・総合的な学習・特別活動）の関連・年間計画の作成
- くわっ子タイムの活動を生かした教材の開発と年間計画への位置付け
- 誰もが積極的に授業に参加できる授業形態の工夫（話し合い活動、発表活動、発表の場）
- くわっ子タイムの活動と開発教材を紹介するための環境整備

Ｇ分科会

自らの考えをもち積極的に表現することのできる生徒の育成

～学びあえる言語活動の充実を通して～

１　会場校　　中之条町立六合中学校　　〔４学級(特支１)　　生徒数33名〕

２　地域・学校の概要

学校の名前にもなっている六合地区は群馬県の北西部に位置する自然豊かな山間地区である。地域に主だった産業は乏しいが、美しい自然と花の栽培が今は主とした産業である。長野県との県境にある野反湖は、シラネアオイや野反キスゲ・ワタスゲなど季節毎に美しい姿を見せる。

本校は、入山中学校・旧六合中学校が合併し、六合中学校になってから20年目になるが、地域の過疎化に伴い生徒数は年々減少傾向にある。美しい自然と歴史ある文化・伝統の中に育つ生徒は、素直で、何事に対しても真面目に取り組む事ができるが、反面、自分の想いを表現することの苦手な生徒が多いことも事実である。学校目標の「強い意志と豊かな心を持ち、心身ともに健康でたくましく生きる心を身に付けた生徒の育成」を目指し、校内研修では 「自らの考えを持ち、積極的に表現することのできる生徒の育成」に視点を当て、授業づくり・人間づくりに取り組んでいる。また、地域学習の一環として取り組んできた特別活動での「シラネアオイの植栽」はすでに18年目を迎えると共に、地域について学習する「ふるさと研究」は、入山研究から数えると20年以上の歴史を持ち、まさに地域に根ざした教育として定着している。

３　研究の概要

自らの考えをもち積極的に表現することのできる生徒の育成
～　学びあえる言語活動の充実を通して　～

↓

○　誰にでもわかる・できる授業を目指す！（授業改善）
○　生徒の思いを引き出す指導！（言語活動の充実））

指導力の向上
・一人一研究授業の実施
・全職員参加の授業参観
・特別に支援を要する生徒への指導の充実
・ワークショップ型研究会の充実

学習環境の整備
・ホワイトボードの活用(授業の見通し)
・発言・発表の場の設定・工夫
・個に応じたきめ細やかな指導（Ｔ・Ｔ）
・教室環境の整備

４　発表の構想

26年度の発表では、２年間取り組んだ本校の研修テーマ「自らの考えを持ち積極的に表現することのできる生徒」の様子を２教科の教科指導で見ていただくとともに、ふるさとの自然や歴史・文化のすばらしさに触れ、あらためてふるさとに誇りを持つ源である「ふるさと研究」の発表を見ていただく予定である。

Ｈ分科会

自分の思いや考えを表現し、高め合う児童の育成

～国語科における「伝え合う活動」を生かした単元構想の工夫～

１　会場校　　昭和村立大河原小学校　〔７学級（特支１）　児童数74名 〕

２　地域・学校の概要

本校は赤城山西北麓の大地、標高650メートルに位置している。地形はおおむね起伏がなく、戦前はごく一部を除き共有林や国有林であった。現在の耕地は、戦後の開拓によるものである。

地域の主要産業は農業である。冷涼な気候を生かして高原野菜の生産が盛んである。この地に入植し耕地を切り開いてきた初代の人々の労苦を礎とし、現在の農業の中心的な担い手は開拓三代目の人々である。交通網の整備により、高原野菜を大都市圏へ出荷するなど、大規模に営農している。また昭和村は、「日本一美しい村」連合に加盟し、昭和村の景色を被写体とするフォトコンテストを実施するなど、観光にも力を入れている。

保護者の多くは農業に従事し、子どもたちは両親や祖父母が畑で働く姿を見ながら生活している。休日には家の仕事を手伝う子ども達の姿も多く見られる。保護者は学校に対して協力的である。

大河原小学校は、昭和35年に独立、開校した。開校当時351名であった児童数は現在74名である。子どもたちは明るく素直であり、身体を動かすことや働くことを厭わないというすばらしさをもっている。それと同時に、自分で考えたことや思ったことを言葉で表現することに対して消極的である面が見られる。また、人間関係の固定化も課題として挙げられる。

３　研究の概要

(1)　研究の内容

校内研修において、国語科における伝え合う活動を生かした単元構想の工夫を通し、自分の思いや考えを表現し、高め合う児童の育成を目指し研修に取り組んでいる。論理的に思考し表現する能力と互いの立場や考えを尊重して意見交流をする力を育むための伝え合う活動のあり方を研修している。単元構想の工夫では学年や児童の実態に応じて、伝え合う活動をする前にまず全体や意味段落を大まかに読み取り、その上で筆者の主張に迫るような課題について根拠を示しながら深く話し合うにはどうしたらよいかなどを明確にする研修に取り組んでいる。また単元を貫く言語活動も、児童の実態や教材に応じた内容や単元構想での位置付けをそれぞれの学年で工夫している。

国語科における校内研修の取組以外でも、学校課題の解決に向けて「異年齢交流の意図的・計画的な実施」「音読集会など表現する場の工夫」を行い、自分の思いや考えを表現し、高め合う児童の育成に向けて学校全体で取り組んでいる。

(2)　公開授業

公開授業　Ⅰ　国語　１～４年（２授業）

公開授業　Ⅱ　総合　５・６年（２授業）

Ⅰ分科会

自他のよさを認め合える生徒の育成

～協同的な学びを取り入れた学習を通して～

１　会場校　　沼田市立利根中学校　〔４学級（特支１）　生徒数90名〕

２　地域・学校の概要

本校のある利根町（旧利根郡利根村）は、平成17年２月の市町村合併により、沼田市に編入した。四方を1300ｍから2400ｍの山々に囲まれ、町の南部は赤城山の北斜面になっている。町の西部には片品川が流れ、国天然記念物に指定されている吹割瀑・吹割渓や、川に沿って温泉街が広がる老神温泉などがあり、豊かな自然や温泉を求め、訪れる観光客も多い。

本校は利根町の追貝地区にあり、沼田市内中心地から北東へ20㎞ほど離れたところに位置している。昭和22年度に東村立東中学校として開校し、昭和31年度に利根村立東中学校、平成９年度に利根村立利根中学校となり、平成17年２月より現在にいたっている。現在、生徒数90名で、特別支援学級を含め４学級のへき地小規模校である。生徒は３つの小学校（利根東小・平川小・利根西小）からほぼ同数ずつ入学している。全体的に素直で真面目な生徒が多く、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。

３　研究の概要

(1)　主題・副主題について

①　「自他のよさを認め合える生徒」とは

生徒一人一人が自らのよさを見つめ、それを互いにかかわらせ合うことにより、それぞれのよさを高め合ったり、深め合ったりすることができる生徒

②　「協同的な学び」とは

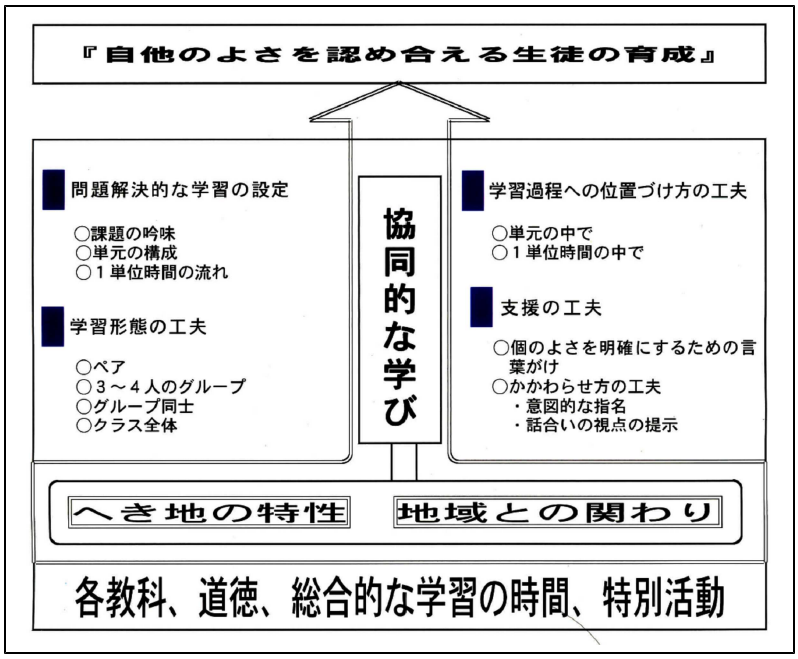
問題解決を図るために、自分のよさを積極的に表現したり、友達のよさを共感的に受け止めたりする学習活動

(2)　研究内容について

「へき地の特性」「地域との関わり」を基盤とした「協同的な学び」を通して、授業の質の向上と仲間を大切にする授業づくりに取り組む。

そして、各教科等の特性を生かし、以下の内容についての具体化を図る。

①問題解決的な学習の設定
②学習形態の工夫
③学習過程への位置づけ方の工夫
④支援の工夫



Ⅲ　へき地教育ブロック別実践研究集会

〈１〉Ａブロック

１　趣　旨　　地域の特性を生かしたへき地教育の推進を図るため、職員の研修を深め、資質の向上に資する。

２　主　催　　群馬県へき地教育研究連盟

３　後　援　　群馬県教育委員会　群馬県へき地教育振興会　安中市教育委員会

４　日　時　　平成25年８月５日（月）　９：３０～１２：００

５　会　場　　安中市文化センター　３Ｆ大会議室
　所在地　安中市安中３－９－６３

６　参加者　　高崎市、安中市、甘楽郡、多野郡のへき地小中学校教職員(10校　約80名)

７　日　程

(1)　受付　　９：３０～９：４５

(2)　開会行事　　９：４５～１０：００

①　開会の言葉　（進行：安中市立細野小学校長　長谷川　好江）

②　会長挨拶　　安中市立松井田北中学校長　今井　典幸

③　来賓挨拶　　安中市教育委員会教育長　　中澤　四郎　様

④　日程説明　　神流町立万場小学校長　　佐藤　裕彦

⑤　閉会の言葉　（進行）

(3)　全体会　　１０：００～１１：００

①　講師紹介　　高崎市立倉渕小学校長　　伊勢川　聰

②　講　　話　　演題「新島襄と八重の生涯」
　新島学園短期大学准教授　山下　智子　様

③　謝　　辞　　上野村立上野小学校長　　新井　秀一

(4)　現地研修　　１１：００～１２：００

①　安中教会礼拝堂の見学及び説明
　解説：安中教会牧師　　江守　秀夫　様

②　旧碓氷郡役所「新島襄・八重子展」見学
　解説：ボランティア　　田中　　榮　様

８　まとめ

講師の山下智子先生は、現職の傍らＮＨＫの大河ドラマ「八重の桜」のアドバイザーとしても活躍されている方である。

講演会では、新島襄とその妻八重が、幕末から明治時代を力強く生き抜いた様子をエピソードとともに知ることができた。最初に、襄のアメリカでの生活や帰国後の苦労話、八重の会津時代や京都での襄との出会いについて知ることができた。次に、襄や八重が安中へ来たときの様子や襄没後の八重が力強く生き抜いたことについて知ることができた。最後に、襄と八重が大切にしていた、「思い合う」ことや「助け合う」ことなどの、人のつながりを重視した教育を行うことが大事であることを述べられた。

現地研修では、安中教会の歴史や礼拝堂の特徴等についての話を詳しく聞くことができた。また旧碓氷郡役所でも、両名にかかわるパネル展示を見学することができ、当時の様子の理解がさらに深まった。　　（文責　安中市立松井田北中学校長　今井　典幸）

〈２〉Ｂブロック

１　趣　旨　地域の実態に即したへき地教育の推進を図るため、教職員の研修を深め、資質の向上を図る。

２　主　催　群馬県へき地教育研究連盟、吾妻郡へき地教育研究会
吾妻東部、西部へき地教育センター

３　後　援　群馬県教育委員会　群馬県へき地教育振興会

４　期　日　平成25年８月７日(水)

５　会　場　中之条町ツインプラザ　交流ホール

６　参加者　吾妻郡へき地学校教職員　　149名

７　日　程

(1)　受　　付　　１３：３０～１３：５０

(2)　開会行事　　１４：００～１４：１０

○　開会の言葉

○　「太陽となろう～へき地教師の歌～」斉唱

○　あいさつ　　吾妻郡へき地教育研究会　　会長　　宮﨑　光男

○　来賓あいさつ　　吾妻教育事務所　　所長　　桑原三七次　様
長野原町教育委員会　　教育長　黒岩　文夫　様

(3)　参加報告　　１４：１０～１４：３０
平成24年度全国へき地教育研究大会和歌山大会の報告
発表者　嬬恋村立干俣小学校　　山口　暁夫　校長

(4)　講演会　　１４：４０～１６：１０

○　演　題　　「小惑星のサンプルから探る太陽系誕生の謎」
～小惑星探査機「はやぶさ」の再突入カプセルを護る奇跡の技術～

○　講　師　　株式会社　ＩＨＩエアロスペース　宇宙技術部　宇宙利用技術室
主幹　森田　真弥　氏

８　まとめ

全国へき地教育研究大会和歌山大会の報告では、干俣小学校の山口校長が参観した授業の様子をスクリーンに映しながら説明した。複式学級における学習リーダーの活用や授業の工夫点等をていねいに話された。たいへん参考になる内容であった。

講演会では、株式会社ＩＨＩエアロスペースの森田真弥先生を迎え、小惑星探査機「はやぶさ」の話が聞けた。地球から宇宙に出ると日なたでは200℃、反対側では－200℃になる。小惑星の重力は地球の重力の10万分の１。これに耐えられる技術、さらに、重力のない中でモーターを動かす工夫、大気圏へ突入しても溶けないカプセルの開発、小惑星探査機「はやぶさ」の再突入カプセルを護る驚異的な技術などについてわかりやすく、また興味深く聞かせてもらった。日本人が誇り高くもっているものは、『思考力』である。そして、やると言ったら必ず自分の役目を果たす『使命感』、そして『知恵』はどの国の方よりある。『日本人は、この３つがあるからリスクをとってでも頑張ろう』といった言葉が脳裏に焼きついた。子ども達にも聞かせたい講演であった。

（文責　嬬恋村立田代小学校長　宮﨑　光男）

〈３〉Ｃブロック

１　趣　旨　利根郡・沼田市・渋川市へき地小・中学校に勤務する教職員が、へき地の特性を生かす教育について研究するとともに、平川地域の歴史や自然を研修することを通して、教職の資質の向上を図る。

２　主　催　群馬県へき地教育研究連盟　利根・沼田・渋川へき地教育研究会

３　後　援　群馬県教育委員会　群馬県へき地教育振興会

４　期　日　平成25年８月９日（金）

５　会　場　沼田市立平川小学校・平川不動滝周辺

６　参加者　利根郡・沼田市・渋川市のへき地小・中学校に勤務する教職員　３２名

７　日　程

(1)　受　　付　　８：２０～８：４０

(2)　開会行事　　８：４０～（平川小学校２階　なかよしホール）

①　開　　会

②　へき地教師の歌「太陽となろう」

③　挨　　拶

・群馬県へき地教育研究連盟理事長　　吉野　隆哉

・沼田市教育委員会教育長　　宇敷　重信　様

④　日程説明

⑤　閉　　会

(3)　講　　演　　９：００～１０：００

・講師紹介　平川小学校長　　髙橋　和広

・講　　演　演題　「平川の風土を知る」

講師　群馬県地域文化研究協議会常任委員・群馬県文化財保護指導委員

藤井　茂樹　様

(4)　休憩・移動　　１０：００～１０：３０

(5)　見学研修　　１０：３０～１１：３０（平川不動滝、不動尊、他）

講師　群馬県地域文化研究協議会常任委員・群馬県文化財保護指導委員

藤井　茂樹　様

(6)　閉会行事　　１１：３０～１１：４０

(7)　解　　散

８　まとめ

縄文の遺跡が残る平川地区で、今年度の実践研究集会を開催した。この平川地区は、歴史的には古いが、経済や生活面ではあまり恵まれた山村ではなかったらしい。それでも江戸時代には産業の興業、学問、剣法が盛んで、現在に伝える物も多い。参加者は藤井先生の話に熱心に耳を傾け、また見学研修では、古瀧庵不動尊にある農民剣法「法神流」の奉納額(1842年)に興味深く見入った。　（文責：沼田市立平川小学校長　髙橋　和広）

Ⅳ　第62回全国へき地教育研究大会（三重大会）

〈1〉　概要報告

上野村立上野中学校長　**飯出　哲夫**

第62回全国へき地教育研究大会が、文部科学省、三重県教育委員会、全国へき地教育研究連盟等の主催により、平成25年11月７日(木)～８日(金)の２日間にわたって三重県津市で開催された。１日目は、津市の三重県総合文化センターを会場に、全国のへき地・小規模校・三重県内各学校の参加者総数1100名のもと盛大に開催された。本県からは、来年度発表校の校長を中心に、県教委指導主事等の11名が参加した。午前の全体会に続き、午後は全国第７次研究推進計画研究課題別６つの分散会が開かれた。２日目は、10の小中学校で公開授業が行われ、その後８分科会場で各地区の研究発表や熱心な協議が行われた。

第１日（11月７日）「全体会・分散会」

全体会開会式は、三重大会実行委員長の開会の言葉に続き、国歌及びへき地教師の歌「太陽となろう」を斉唱し、主催者として、文部科学省初等中等教育局教育課程課長、三重県教育委員会教育長、全国へき地教育研究連盟会長の挨拶があり、三重県知事、津市長から来賓代表の祝辞をいただいた。

基調報告では、まず、全国へき地教育研究連盟副会長から、第７次長期５か年研究推進計画(平成21～25年)の概要説明があり、続いて三重大会研究部長から、三重大会主題「ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く心豊かな子どもの育成をめざして」、大会スローガン「美し国三重から　伝えよう　育もう　自立する力　共に生きる力」をもとにした三重県の取組に関する報告、分科会場校の紹介がなされた。

講演は、「へき地の子どもの社会性・言語・コミュニケーション力をいかに育むか」～極小規模校の特性を生かしたこれからのへき地育～と題して、北海道教育大学釧路校教授：玉井康之先生の話があった。

講演終了後、次回開催地である、群馬県へき地教育研究連盟吉野理事長より挨拶があり、群馬県へき地教育研究連盟研究部長が、分科会会場の紹介を行った。最後に三重県へき地・複式教育研究連盟事務局長より群馬県へき地教育研究連盟事務局長へ大会旗が引き継がれ、全体会を終了した。

アトラクションは、名張市立滝之原小学校５・６年児童と服部博之さんによる「滝之原太鼓と服部博之さんの太鼓」が披露された。

午後は、全国第７次研究推進計画研究課題別に課題１から課題６までの６つの分散会に分かれ、それぞれ２校(全国ブロック１校、東海・北陸ブロック１校)の発表をもとに活発な研究協議が行われた。

第２日（11月８日）「授業公開・分科会」

２日目の前半は、三重県下の10小中学校(Ａ鳥羽市立神島小学校、Ｂ鳥羽市立神島中学校、Ｃ鳥羽市立答志小学校、Ｄ鳥羽市立答志中学校、Ｅ大紀町立錦小学校、Ｆ大紀町立大紀中学校、Ｇ南伊勢町立南島西小学校、Ｈ南伊勢町立南島西中学校、Ｉ紀北町立赤羽小学校、Ｊ紀北町立赤羽中学校で、それぞれ４～７授業、計48の授業が公開され、その後Ａ～Jの８分科会で、開会式、各学校(地域)の研究発表及び研究協議、閉会式が行われた。(Ａ・Ｂ、Ｉ・Ｊは、合同分科会)。

〈２〉 分散会報告

第６分散会

課題意識をもって自ら学び、共に高め合う学習過程の改善・充実を図る

高山村立高山小学校長　**田村　典彦**

１　研究発表①

(1)　発表校　　和歌山県田辺市立富里小学校（児童数26名　　３学級）

(2)　研究主題　　一人ひとりが進んで表現し、ともに学び合う授業の創造

(3)　研究の概要

①　国語科の説明的文章の読解を中心とした授業改善

・ 国語科の学習で用いられる言葉を用語表として作成・活用

・ 見通しシートを活用した授業

単元全体の学習活動を提示する「単元の見通しシート」

毎時間の活動を短冊型で提示する「１時間の見通しシート」

・ 全文視写と全文暗記

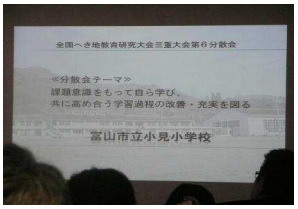
②　ふるさと学習（地域のよさを知り伝えることにより、ふるさとを誇りに思い、富里を愛する児童を育成する活動）

・ 地域の方と富里を歩く　・地域の方から食文化を学ぶ　・地域の方を招き句会を楽しむ

(4)　所感

学年や年度によって変わらず、誰がどの学年を担任しても同じ学びを積み重ねていく系統的な指導の必要性から始まった。学習指導を進めていく中では、重要なことである。「自ら学ぶ」の観点で、めあてからゴールまでの道筋が子どもレベルでできていることが大切である。本校の「単元の見通しシート」の活用で、何をどのように勉強するのかの見通しが持てる。また、「1時間の見通しシート」の活用では、実態にあわせて組み合わせることができる短冊型シートになっているので、学習の流れを自己選択できたり間接指導のとき不安なく見通しをもって取り組めたりできるものである。子どもたちに見通しをもって学習に取り組ませる手立てとして参考にしたい。

２　研究発表②



(1)　発表校　　富山県富山市立小見小学校（児童数27名　４学級　）

(2)　研究主題　　学ぶ楽しさやできる喜びを味わい、自分のよさを生かして主体的に学習に取り組む子どもの育成

(3)　研究の概要

①　身に付けさせたい力を明確にし、見通しをもって追究を進める学習過程の設定

・学習に見通しをもち主体的に文章を読み進めていくための「読みの観点」提示

・説明文の学習の視点として提示した「10の観点」

②　地域の自然を生かした学習過程の設定

・自然の中で遊ぶことから、そこから秋を見つけ おもちゃづくりへとつなげた

③　互いの感じ方や考え方のよさを認め合うことのできる交流の場・話し合い活動

・複式のよさを生かした異学年交流、アドバイスカードの活用

・説明の仕方の型の提示　・ホワイトボードを利用した説明

(4)　所感

「読みの観点」や学習の視点としての「10の観点」を活用することにより、学習の観点や読みの型が理解できる。子どもたちは、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるであろう。また、交流の場、話し合いの場の設定であるが、少人数であるために異学年交流を取り入れたり、仲間と関わる機会が多く取れたりする利点がある。１学級１名の編制における交流活動の実際について協議で話題になったが、異学年交流、仮想児童の想定等の工夫が必要となる。少人数のよさをねらい達成に向けた指導に上手に生かしたい。

〈３〉 分科会報告

Ａ分科会

小中の連続した学びを基盤にした「生きる力」の育成

～国語科でのひとり学びの力を育てる～

みなかみ町立藤原小学校長　**下田　洋一**

１　会場校　　三重県鳥羽市立神島小学校〔児童数16名　３学級（2・3年、4・6年複式)〕

２　地域・学校の概要

神島は周囲約４km、伊勢湾口に浮かぶ、三重県唯一の外洋型の孤島である。島の北西側は伊勢湾に、南西側は太平洋に面しており、主産業は、全戸数の55％を占める漁業である。季節風を避けて人家は島の西北部の急な斜面に集中し、小・中学校だけが南側にある。17ｋｍ離れた鳥羽からの市営定期船が唯一の交通手段であり、１日４便で、片道45分程度かかる。交通の利便上の問題は、島での生活や教育にも大きな影響を与えていて、小中学校共に県内唯一の３級へき地校に指定されている。

３　研究の概要

(1)　研究の内容

小中合同研究主題を『小中の連続した学びを基盤にした「生きる力」の育成』と設定し、生きる力を「１，確かな学力　２，自分の考えをもち、それが表現できる力　３，相手を尊重し互いに高め合う力　４，主体的に判断し行動する力　５，たくましく生きる気力と体力」の５つに重点化して取り組んでいる。特に研究の体制づくりでは、「研究組織」「校時の一元化」「小中学校・保育所の連携体制」等の工夫が見られる。

小学校の研究は「国語科でのひとり学びの力を育てる」という取組を行っている。複式学級の授業における「間接指導」の時間をどのように充実させるかに課題意識をもち、主体的に学ぶ力を育てるために、ひとり学びを取り入れた授業のあり方を追究している。

(2)　公開授業

＜公開授業Ⅰ＞

１年国語、２・３年国語、４・６年国語

＜公開授業Ⅱ＞

全校　生活・総合的な学習の時間

「たこちゃん学習～発見発信・神島、神島自慢～」（ふるさと学習）

４　所感

公開授業Ⅰはすべての学級で国語の授業であり、研究テーマに沿った授業が展開されていた。子どもたちの目の付くところに学び方（順序）が掲示してあり、教師がひとり学びを指示すると、子どもたちだけで学習に取り組む姿が見られた。少ない人数ではあるが、互いにかかわり合う姿も見られた。学び合いの学習を進めるにあたっては、神島小学校のように、まずは学習の順序をしっかり子どもたちに示し、訓練することが大切であると感じた。その次に、内容的に深まりのある学びにするための工夫や支援を投入していくというように、ステップを踏んでいくことで主体的な学びが期待できると考える。

公開授業Ⅱでは、神島の特産である「たこ」について各学年が調べたことや考えたことを発表し合い、ふるさと神島のよさを再認識していくというものである。各学年がしっかり発表する様子が見られ、感想等の意見交換も活発であった。へき地校の課題といわれる人前で話すことが苦手という部分は全く感じなかった。

Ｂ分科会

小中の連続した学びを基盤にした「生きる力」の育成

～少人数の特性を活かした指導・支援のあり方～

群馬県教育委員会義務教育課指導主事　**増茂　孝行**

１　会場校　　鳥羽市立神島中学校〔生徒数５名　３学級　職員数10名〕

２　地域・学校の概要

鳥羽市街から約17kmの伊勢湾に浮かぶ周囲４kmの離島。主産業は、全戸数の55％を占める漁業。唯一の交通手段は定期船で、１日４便、片道45分程度かかる。そのため、県内唯一の３級へき地校に指定されている。

島民の学校教育への関心は高く、一人ひとりの生徒のことを大半の島民が知っていて、ＰＴＡ活動を中心に学校教育には島をあげて全面的な協力が行われている。運動会や文化祭などは、保育所・小学校・地域とともに作り上げる地域の大きなイベントとなっている。

また、１年生が職場体験学習で漁師体験を行ったり、生徒会活動として、生徒が高齢な島民の自宅まで灯油運びのボランティアを行ったりするなど、地域と連携した教育活動を行っている。

３　研究の概要

(1)　研究の内容

①　研究の仮説

小規模な学校での個に寄り添った少人数指導の推進や、家庭・地域との密接な連携をベースにした取組を追求していくことは、生徒の自主性の育成やすべての学校に共通する課題の解決にもつながる。

②　研究の柱

・「少人数の特性を生かした指導・支援」を取り入れた授業研究や教師の指導力の向上

・自学自習の力の育成や確かな学力の定着を図るための指導・支援の工夫

(2)　公開授業

＜公開授業Ⅰ＞

【社　　会】１年　世界の様々な地域の調査～メキシコ～

【英　　語】２年　「Lesson7 Good Presentation ～比較級・最上級～」

【国　　語】３年　故郷

＜公開授業Ⅱ＞

【総　　合】全校　総合　ふるさと学習 ～神島を知る、誇る、還す～

４　所感

神島中学校はへき地のよさを生かし、学校・家庭・地域が一体となり子どもたちを育てていこうという意気込みを感じられる学校であった。

公開授業は、１年生の社会と２年生の英語、全校による総合を参観した。社会は「Ｓｋｙｐｅ」を活用したメキシコ在住の日本人とテレビ会議（交流学習）、英語ではＡＬＴを活用した実践的な学習が行われ、へき地を感じさせない教材教具の活用が行われていた。また、生徒が自分で調べたことをメキシコ在住の日本人やＡＬＴとの交流の中で確認するなど、教師と生徒との一対一の会話や教師による教え込みで終わることのないよう指導の工夫も行われていた。総合では、「一人ひとりの学習や体験の多さ」「地域と密接な関係と一体化」といったへき地小規模校の「強み」を活かした工夫が行われていた。学校が元気になることで、地域が元気になる、まさに地域の核として今後の発展を期待できる学校であった。

Ｃ分科会

自らをみつめ、互いの思いを認め合いながら 高まり合う子ども

～伝え合う力を高めよう～

長野原町立応桑小学校教諭　**根岸　菜穂美**

１　会場校　鳥羽市立答志小学校　〔児童数　105名　６学級　職員数14名〕

２　地域・学校の概要

答志島は、伊勢湾に浮かぶ総面積6.98k㎡、周囲26.3㎞、島の80％が森林で、人口約2,800人の島である。わかめ養殖、海苔養殖、ちりめん加工が盛んで、児童も休日には、それらを手伝う。

答志小学校は、創立138年目の島唯一の小学校である。児童は、校区内の保育所から入学し、互いによく知っている存在であるため、上級学年を「にい」「ねえ」とよび、家庭的な雰囲気がある。また、学校が、地域の中核であるため、地域の人々は、学校行事やＰＴＡ活動への積極的な参加、ゲストティーチャーとしての授業支援など学校教育活動に大変協力的である。

このように「答志の宝」として、児童は地域の人々に見守られながら、明るく素直にのびのびと育っている。

３　研究の概要

(1)　研究の内容

研究主題の達成に向けて、人権学習の系統性、授業改善、ふるさととのつながり、特別支援教育を具体的な手立てとして推進してきた。

具体的な取組は、次の通りである。

○縦割り班活動（春の縦割り班活動、縦割り班清掃、運動会の全員リレー、なわとび集会、６年生を送る会）

○食に関する活動（食の体験フェスタ）

○こだま集会（声を出して読もう集会）

○鼓笛活動（鼓笛パレード、防火パレード）

(2)　公開授業

①　１年生活「とうしじまんをみつけよう」　２年生活「しめ縄名人に学ぼう」
３年総合「もっと答志を知ろう～ジンジロ車～」　４年総合「スーパーヒーロー答志分団」
５年総合「がいええぞ！答志島を発信しよう」　６年総合「歴史を秘めたロマンの島」

②　全校　生活・総合「がいええぞ！答志島～あわび歌・防火の歌をとおして～」発表

４　所感

へき地校に共通する地域教材の豊かさを存分に生かしての公開授業だった。公開授業Ⅰは、全学年の公開となっていたため、全学年を参観させていただいた。それぞれの学年が、地域の特色を生かし、研究主題に迫る展開を工夫していた。公開授業Ⅱは、全校児童による発表であったが、児童達は、堂々と誇りをもって発表に臨んでいたように感じた。最後に、担当指導主事の講評にもあったが、へき地の良さを生かすとは、魅力ある地域素材に、どこで、どう、子どもたちに出会わせたらよいかという計画の位置付けが必須であると感じた。

港までの帰り道、道に迷った私に、大きな声で道を教えてくれ、「気いつけて。」と手を振ってくれたおばあさん。答志島は、本当に自然が豊かな温かい島だった。

Ｄ分科会

自らを見つめ、高まっていこうとする生徒の育成

～人権学習・ふるさと学習・自問学習の相乗作用を土台として～

片品村立片品中学校長　**小野　和好**

１　会場校　　鳥羽市立答志中学校〔生徒数59名　４学級(特別支援学級１)　職員数10人〕

２　地域・学校の概要

答志島は、鳥羽の佐田浜港から定期船で約２０分、三重県最大の島である。九鬼水軍の将（九鬼嘉隆）の胴塚・首塚や縄文・弥生土器が出土する古墳群、寝屋子制度や神祭など特有の伝統文化を受け継ぐ、自然豊かな島である。答志中学校は、「しんで」と呼ばれる海抜１５ｍの小高い山間に建つ、全校生徒５９名の１級へき地校で、生徒は素朴で温かい人情に包まれて育っている。卒業後、生徒は島に残り地域産業（漁業や観光業）に従事する者と離島する者とに分かれるが、お盆や正月、祭りの時などはみな帰島し、島に誇りを持ち島とのつながりを大切に生活している。

答志中学校では、郷土を愛し続ける後継者の育成を目指して、継続した研究を続けてきている。

３　研究の概要

(1)　研究の内容

○　地域の産業や地域で働く人々とふれあうことで、地域の特性や良さを知り、自らの将来生き方について考える糧になるのではないかと考え、各学年毎にテーマを決めて、一年間を通して総合的な学習の時間を「ふるさと学習」と位置付け、取組を進めている。

〈　１年生　〉地域の産業から学ぶ　～わかめの養殖体験学習～

〈　２年生　〉地域の人々から学ぶ　～人生の先輩との出会い学習～

〈　３年生　〉地域の取組から学ぶ　～藻場再生活動体験学習～

理科:水産研究所講師

○　少人数を生かし、「ふるさと学習」「人権学習」「自問学習」の相乗効果を土台として教科学習のつながりを大切に、コミュニケーションをのばし基礎・基本の定着を図る。

(2)　公開授業

①　公開授業Ⅰ　１年「英語」、２年「保健体育(剣道)」、３年「理科」食物連鎖

②　公開授業Ⅱ　全学年「総合的な学習の時間」　藻場再生活動体験

４　所感

港からの道案内、校舎内の接待に至るまで、保護者の方が柔和な笑顔とともに協力してくれた。玄関アプローチや多目的室等には、今までの活動写真や感想等が所狭しと設置され、大会にかけてきた思いが察せられた。公開授業Ⅰでは、「自分の宝物スピーチ」による発言力育成、地域駐在所の講師による剣道授業、水産研究所講師による藻場・魚の食物連鎖授業がなされ、ともに少ない人数だからこそ効果的な体験重視の授業、温かい授業が展開されていた。

公開授業Ⅱでは、３年総合の中間発表が１・２年生を聞き手として展開された。答志中学校では、ふるさと学習を核に地域の願いを受け止める生徒の創造に尽力している。発表の中で印象的であったのは、３年時の修学旅行「沖縄」は、「答志の海・漁業をふるさと学習で学び、沖縄の海や漁業との比較の中からふるさとを再発見！」で行われていることであった。生徒は地域の方々、海の専門家、旅先での出会いの中で「俺に何ができるか」を自問しつつ豊かに学んでいた。

F分科会

進路保障の確立をめざして

～基礎･基本の定着と学習意欲を高める指導法の工夫～

上野村立上野中学校長　**飯出　哲夫**

１　会場校　　三重県大紀町立大紀中学校〔生徒数97名　４学級（特別支援１）〕

２　地域・学校の概要

大紀町は、旧大宮町・旧紀勢町・旧大内山村が、平成17年２月14日に合併して誕生した。大紀町は三重県の中南部に位置し、海と山の幸に恵まれ、美しい自然に囲まれた風光明媚な町である。町の９割を山林が占め、沿岸部に民家が集中する典型的な農山漁村地域で、人口は約11,000人である。平成21年に３校が統合し、大紀中学校としてスタートした。 校区には、錦・柏崎・大内山の３地区があり、へき地特別地域校に指定されている。本年度の全校生徒数は97名である。生徒は、明るく素直であり、学習や行事、生徒会活動や部活動に真面目に取り組んでいる。保護者は、地域の教育に対する関心が高く、学校行事等にも協力的である。

３　研究の概要

(1)　研究主題「進路保障の確立をめざして」副主題～基礎・基本の定着と学習意欲を高める指導法の工夫～

①　「学校プロフィールの作成」…「三重県型学校経営品質」の考え方（ＰＤＣＡ）を常に取り入れ、学校の質を向上させようと取組を進めている。特に、「明日も来たいと思う学校」を学校づくりのテーマにして日々取り組んでいる。

②　「学びあい学習」…統合時から「仲間づくり」を学校の柱として取り組み、小学校と連係して９年間の人権教育計画を作成して実践している。授業においては、「仲間づくり」においてつながった人間関係を土台に、基礎学力の向上をめざして、「ペア」や「グループ」による学習を進めている。「学びあい学習」を「お互いに尊重し合う関係の中で、物の見方や考え方が異なる仲間と考えや意見を交わし、理解や技能を補完しあったり深めたりすることにより、より確かな基礎・基本を身につける学習」ととらえ、研究を深めている。

(2)　研究の実際（授業で目指す「生徒像」）

①　「学びあい学習」で、ペアやグループの生徒から教えてもらって「わかる」生徒。

②　「わからないこと」を、仲間に「教えて」と聞くことができる生徒。

③　「わかったつもり」でいたことを学び合うことで曖昧な点に気づき、理解が深まった生徒。

④　仲間と学び合うことで自分の考えに自信を持ち､授業への積極性や意欲が高くなった生徒。

⑤　「学びあい学習」で高まった学習意欲をもって自主的に家庭学習に取り組む生徒。

(3)　公開授業

１校時－中学１年社会（生徒数34名）「室町幕府と下剋上」

１校時－中学２年英語（生徒数26名）「空気中の水の変化」

１校時－中学３年数学（生徒数36名）「関数　$y = ax^2$」

２校時－総合的な学習「全校合唱、職場体験学習の発表（２年生)、大紀中ソーラン（３年生)」

４　所感

大紀中学校は、研究主題を「進路保障の確立をめざして」～基礎・基本の定着と学習意欲を高める指導法の工夫～として実践に努めている。特に、本校も校内研修で取り組んでいる「学び合い活動」が参考になった。H26年度に、全国へき地教育研究大会群馬大会の分科会場となっている本校にとって、運営方法、全体の時間配分、校内の準備等を含め、大変参考になった。

Ｇ分科会

基礎・基本を確実に身につけ、意欲的に学ぼうとする子どもの育成

～わかる算数科の授業を通して～

嬬恋村立田代小学校長　**宮﨑　光男**

１　会場校　　南伊勢町立南島西小学校〔児童数107名　７学級　職員数13名〕

２　地域・学校の概要

南島西小学校のある南伊勢町は、豊かな自然と温暖な気候に恵まれ綱漁業や養殖漁業などの水産業や柑橘類の栽培が広く行われている。

南島西小学校は、平成19年に周辺３校が統合して新設され、７年目を迎えている。しかし、南伊勢町は来年平成26年度には、統廃合により小学校が３校、中学校が２校になる。

児童は地域住民に見守られながら、明るくのびのびと育っており、遊びや全校及び縦割りでの活動を通して良好な人間関係を築きながら、たくましく生き抜く心や態度が育っている。

３　研究の概要

(1)　研究内容

基礎・基本を確実に身につけ、意欲的に学ぼうとする子どもの育成を目指し、研究を進めている。特に算数科の授業を通してわかる授業に努め、実践を積んでいる。以下の研究を中心にして行っている。

①　基礎・基本的な内容の定着（算数を中心とした朝学習、補充学習、学習習慣づくり）

②　確かな学力を身につける授業の改善（わかる授業の創造、伝え合い学び合う場の設定）

③　組織的に取り組む学校体制の確立（学習規律、授業の約束ごと、授業スタイルの統一）

④　特色ある取組（地域の特色あじの干物を生かした総合的な学習の時間）

(2)　公開授業

〈公開授業Ⅰ〉　【あじっ子集会】１年・生活科　３年５年・総合的な学習の時間（あじの干物つくり）・高学年児童が、低・中学年児童の活動を手助けし、互いに協力し合って干物つくりをする。

〈公開授業Ⅱ〉　【算数】２年（かたちを調べよう）　　４年（広さを調べよう）

６年①②（資料の調べ方）少人数指導　　特別支援学級（小数のわり算を考えよう）

４　所感

公開授業はすべての学級で行われ、どの学級もすばらしい授業だった。

公開授業Ⅰでは、１・３・５年生児童による「あじの干物をつくろう」（生活・総合）が公開された。地元で捕れるあじをさばき、干物にする。地域の歴史があり、製法も伝統として各家家に伝わっている。ゲストティーチャーとして地区の方々が指導をしていた。あじっ子集会を参観をして、高学年児童が、低学年児童に手を取ってあじの開き方を相手の立場に立って親身に教えていた。責任感と相手を思う気持ちが伝わってきた。また、地域の特産を活かした体験学習をすることにより、児童は、地域の良さに改めて感じ、誇りをもつことにつながると思えた。

公開授業Ⅱでは、２・４・６年生と特別支援学級児童が算数の授業をした。特に６年算数では、少人数に分かれて同じ学習内容を２教室で担任と算数担当が行っていた。わかる授業を目指し、ペア学習を取り入れて、学級の児童全員が主体的に学習に取り組んでいた。研究協議の中で発問のことが質問され、考えた末での練り上げての発問であった。わかる授業のため教職員が一丸となって取り組んでいる姿が感じられた。

Ｈ分科会

自己を見つめ　よりよい生き方を考え
仲間とともに高め合える生徒の育成

～ともに支え合い　理解し合える仲間づくり～

中之条町立六合中学校教頭　**樋口　　猛**

１　会場校　　南伊勢町立南島西中学校〔生徒数69名　　３学級〕

２　地域・学校の概要

学校が位置する南島地域は、伊勢志摩国立公園の南玄関に位置し、町の大部分は紀伊山地に属する山地帯で、海岸線は風光明媚なリアス式海岸が続いている。恵まれた自然環境のもとで、水産業と農林業が中心に行われ、湾内ではハマチやタイ等の養殖が盛んに行われている。

南島町立吉津中学校と島津中学校が統合し、昭和57年に南伊勢町立南島西中が誕生した。統合当初297名いた生徒数も、近年急激に減少し、現在は69名となり、本年度をもって閉校となり、平成26年度より南島中学校の校舎に統合され､南島中学校としてスタートすることになっている。

３　研究の概要

(1)　研究の仮説

【仮説１】自ら考え進んで課題解決に取り組む生徒の育成

・　生徒のコミュニケーション能力を高め、つながりのある授業を創造していけば、意欲的に課題解決に取り組む生徒が育つのではないか。

【仮説２】将来の夢に向かって努力する生徒の育成

・　すべての領域において、生徒の自尊感情や自己有用感を育んでいけば、将来の夢に向かって努力していく生徒が育つのではないか。

【仮説３】ふるさとを愛し地域を元気にする生徒の育成

・　ふるさと「なんとう」から学び、生徒と地域の人々とのつながりを深める活動を行えば、生徒の元気が地域の人々に伝わるのではないか。

(2)　公開授業

＜公開授業Ⅰ＞

【英語】１年　Lesson５「インドから来た転校生」

【国語】２年　「ことばを引き出すインタビュー」

【学活】３年　「未来の『なんとう』を考えよう」

＜公開授業Ⅱ＞

【キャリアフォーラム】(全校縦割り活動)「ふるさと『なんとう』を元気なまちにするために」

４　所感

公開授業Ⅰでは、全学級で授業の公開があり、グループ学習等で話し合った内容をまとめて発表する場面を大切にした授業であった。

公開授業Ⅱのキャリアフォーラムは、全校生徒の縦割り５班（観光、産業、福祉、環境、文化）による研究について、最終発表に向けての検討会を行った。分科会ごとに地域の関係者をアドバイザーとして招き、話し合いを深める場面や疑問に対する解説等の場面で活用はたいへん効果的であった。

生徒も教師も､『なんとう』を心から愛している気持ちが伝わってくる素晴らしい内容であった。

Ⅰ分科会

聴き合い、伝え合い、学び合える児童の育成

～人・地域とのつながりの中で～

高崎市立宮沢小学校教諭　**堤　　陽一**

１　会場校　　三重県紀北町立赤羽小学校（児童数12名　３学級　職員数９名）

２　地域・学校の概要

赤羽小学校は、赤羽川・三戸川の合流する近くの、野山に包まれた自然環境の中に位置する。校区の面積が、紀伊長島区のおよそ半分を占めるほど広く、一級へき地指定校である。

赤羽の歴史は古く、昔から、農林業を中心としてきた地域であるが、地場産業の衰退による過疎化の波は大きく、明治12年に創立された本校も、昭和37年をピーク(367人)に児童数の減少傾向が著しい。昭和40年から50年にかけては、三つの分校が相次いで閉鎖され、本校に吸収された。

平成８年度から複式学級が始まり、本年度は、１・２年、３年、５・６年の３学級編成である。

10年ほど前から太鼓演奏に取り組み、学校行事や地域の行事でも披露している。地域からゲストティーチャーを招いて、「米作り」、「マコモダケ作り」も体験し、学校・地域との連携をさらに強化し、「つながり」のある教育活動を目指している。

３　研究の概要

(1)　研究の内容

ペア学習、学習リーダーによる自主学習の充実と、思考力・表現力・判断力の育成につながる言語活動の充実を図ることを中心に据えて、研究を進めている。

①　複式教育・少人数教育における効果的な指導法の研究

ア　基礎学力定着のための取組

イ　学び合いを支える授業の工夫

ウ　少人数を生かした教育活動

②　地域を学びの場とする教育活動の工夫

１・２年の授業(算数・国語)

(2)　公開授業

①　公開授業Ⅰ　１・２年複式：１年「算数」２年「国語」
３年：「道徳」
５・６年複式：５年「国語」　６年「算数」

②　公開授業Ⅱ　全学年：赤羽中学校、志子小学校との合同学習発表
(赤羽小学校…群読・太鼓演奏)

４　所感

青い空と緑の山々に囲まれた校舎の中に入り、階段を上っていくと、学校行事等の様子を写した写真が壁面にたくさん貼られていた。すぐ近くの１・２年の教室からは活気のある声が聞こえ、写真の笑顔とすぐに合致した。

各学年の教室を見ると、前面には「学級目標」に加え、「めざす学校像」「赤小の約束」「発表時の約束」「声の大きさの約束」など共通内容のものが掲示され、学校全体として同じ方向を向いて教育活動に取り組んでいることがうかがわれた。

複式の授業は、あえて「異学年異教科」とし、本校の研究の成果と課題を明らかにすべく取り組まれていた。その中で児童たちは、間接指導時でも、リーダー役児童が「ガイド」をもとに児童だけで授業を進めるなど主体的な学習を行っており、大いに学ばせていただけた。

多くの面で刺激を受けた分科会であった。

Ｊ分科会

小規模校（へき地校）の特色を活かした豊かな学びの研究

～学習意欲の向上・地域発掘の取組～

沼田市立利根中学校長　**角田　和志**

１　会場校　　三重県北牟婁郡紀北町立赤羽中学校　〔生徒数22名　４学級　職員数12名〕

２　地域・学校の概要

北牟婁郡紀北町は、三重県の南部、東紀州の玄関口に位置し、東南部に熊野灘、西北部には日本有数の原生林が残る大台山系に連なる急峻な山々に囲まれた地域であり、町の総面積の９割近くを森林が占めている。世界遺産の熊野古道を有し、学校では以前から地域の「ツヅラト峠を守る会」の人たちとの活動や熊野古道探索学習等、調査研究を続けてきている。

地域の人口減少とともに生徒数は激減してはいるが､地域の学校に対する愛着や期待は大きく、地域の人々の粘り強い運動もあり、平成13年２月５日に木造の新校舎が完成した。地域との結びつきも強く、校区の伝統芸能である「中桐神楽」を復活させるなど、地域の人たちの温かい支援を受け、校区の小学生とも連携しながら豊かな学びを追及している。

３　研究の概要

(1)　研究の仮説

①　学習意欲を向上させることで、自ら学ぼうとするサイクルが生まれ、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学ぶ態度」が相互的に高まり、確かな学力が身についていくと考える。

②　地域について学んだり良き伝統を継承していくことで、地域とのつながりが一層強まり、地域のために貢献しようとする生徒や、自ら考え行動できる生徒が育つと考える。

(2)　研究内容

①　学力向上のための取組　【授業の改善】【学習環境の整備】【家庭学習の充実】

②　地域発掘のための取組　【篠笛・神楽・扇踊りの継承】【熊野古道学習】【地域探索学習】

(3)　公開授業

①　公開授業Ⅰ

１年（生徒12名）　社　　会　「歴史のとらえ方」

２年（生徒５名）　理　　科　「電流の性質とその利用」

３年（生徒５名）　保健体育　「体つくり運動」

②　公開授業Ⅱ（小中合同）

○赤羽中学校生徒によるプレゼンテーション・神楽・篠笛

○赤羽小学校児童による群読・太鼓演奏

○赤羽小学校・志子小学校・赤羽中学校の児童生徒による合同演奏

〈１年　社会〉

４　所感

全校生徒が現在22名、３年後には10名となってしまう小規模校である。少人数ゆえに生徒一人一人が自分のやるべきことをよく自覚し、地域と結びついた様々な体験を通して自己存在感を高めているように感じた。また、学校がすべきこと、地域がすべきことの両方がうまくかみ合って、学校の中での学びが地域と関わることでより豊かになっている様子がうかがえた。

授業の中では生徒同士のかかわりがあまり見られなかったが、赤羽中学校が地域に根ざした学校として、地域の方々に愛されながら長く存続し、また、小さな生徒集団の中でも生き生きと活動できる生徒を育てたいという教職員の強い思いが感じられた分科会であった。

資　　料

Ⅰ　平成25年度　へき地学校資料

〈１〉級別へき地学校数

〈(　) 内は、内数で休校中の学校である。〉　　平成25．５．１現在

級別／校種別	県準	特地	国準	１級	２級	３級	４級	A 計 分校	B 県全体 分校	A／B
小　学　校	１０	2	6	7	2	1(1)	0	２８ 1(1)	３２４ 1(1)	8.6%
中　学　校	7	2	1	5	2	1(1)	0	１８ 1(1)	１６８ 1(1)	10.7%
計	１７	4	7	１２	4	2(2)	0	４６ 2(2)	４９２ 2(2)	9.3%

〈２〉級別へき地本校分校別学校数

平成25．５．１現在

〈(　) 内は、内数で休校中の学校である。〉

級別／校種別		県準	特地	国準	１級	２級	３級	４級	小　計	合　　計
小学校	本校	１０	2	6	7	2	0	0	２７	２８
	分校	0	0	0	0	0	1(1)	0	1(1)	(1)
中学校	本校	7	2	1	5	2	0	0	１７	１８
	分校	0	0	0	0	0	1(1)	0	1(1)	(1)

〈３〉級別へき地学校児童生徒数

平成25．５．１現在

級別／校種別	県準	特地	国準	１級	２級	３級	４級	計 (A)	県全体 (B)	A／B
小　学　校	1,095	421	323	421	123	0	0	2,383	108,395	2.2%
中　学　校	521	337	23	421	57	0	0	1,359	56,228	2.4%
計	1,616	758	346	842	180	0	0	3,742	164,623	2.3%

〈４〉郡市別へき地学校数一覧

〈(　) 内は、内数で休校中の学校である。〉　　平成25．５．１現在

No.	郡市	学校数 本校	学校数 分校	学校数 計	内訳 文部科学省指定 4	内訳 文部科学省指定 3	内訳 文部科学省指定 2	内訳 文部科学省指定 1	内訳 文部科学省指定 準	内訳 文部科学省指定 特	内訳 県準	合計
1	前橋	小 / 中	1(1) / 1(1)	1(1) / 1(1)		1(1) / 1(1)						1(1) / 1(1)
2	渋川	1		1							1	1
3	高崎	2 / 1		2 / 1					2		1	2 / 1
4	安中	1 / 1		1 / 1							1 / 1	1 / 1
5	多野	2 / 2		2 / 2			1 / 2	1				2 / 2
6	甘楽	1		1							1	1
7	吾妻	13 / 8		13 / 8			1	5 / 4	1	2 / 1	4 / 3	13 / 8
8	沼田	2 / 2		2 / 2					1 / 1		1 / 1	2 / 2
9	利根	6 / 2		6 / 2				1 / 1	2	1	3	6 / 2
総計	小計	27 / 17	1(1) / 1(1)	28(1) / 18(1)	0 / 0	1(1) / 1(1)	2 / 2	7 / 5	6 / 1	2 / 2	10 / 7	28(1) / 18(1)
	計	44	2(2)	46(2)	0	2(2)	4	12	7	4	17	46(2)

〈５〉複式学級の郡市別、編制別、学級一覧(小学校のみ)

平成25．５．１現在

郡市＼学年	１・２年	２・３年	３・４年	４・５年	５・６年	３・４・５年	４・５・６年	学級数計	学校数
渋川市	0	0	1	0	0	0	0	1	1
多野郡	0	1	1	0	0	0	0	2	2
吾妻郡	1	1	1	1	1	0	0	5	3
沼田市	0	0	1	1	0	0	0	2	2
利根郡	2	0	2	1	1	0	0	6	3
計	3	2	6	3	2	0	0	１６	１１

〈6〉 級別へき地学校児童・生徒数の推移（小・中学校別）

年度	県　準		特　地		国　準		1　級		2　級		3　級		4 級		計　(A)		県全体(B)		(A)／(B)(%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校		小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
53	6,718	3,335	744	407	918	254	1,475	348	60	52	15	0			9,930	4,396	175,155	78,059	5.6	5.6
54	6,649	3,312	673	370	911	231	1,458	306	63	38	14	0			9,768	4,257	184,018	76,447	5.3	5.5
55	6,664	2,983	654	329	981	326	1,255	299	52	35	14	0			9,620	3,972	188,039	79,196	5.1	5.0
56	6,751	3,009	629	310	928	198	1,184	183	47	24	11	0			9,370	3,724	190,882	83,125	4.9	4.5
57	6,559	3,038	603	317	870	221	1,141	302	46	26	11	0			9,230	3,904	191,613	89,121	4.8	4.4
58	6,377	2,945	598	318	958	200	1,109	294	45	18	3	0			9,007	3,775	190,368	89,857	4.7	4.2
59	6,160	2,935	578	311	863	205	1,051	279	51	13	4	0			8,708	3,743	186,953	92,462	4.6	4.0
60	5,808	2,958	570	320	843	196	982	284	47	15	4	0			8,254	3,773	181,535	95,924	4.5	3.9
61	5,623	2,897	575	284	756	206	898	272	50	17	1	0			7,903	3,676	174,525	98,645	4.5	3.7
62	5,433	2,776	536	265	723	215	852	267	48	19	1	0			7,593	3,542	167,356	98,603	4.5	3.6
63	5,308	2,679	664	248	662	224	715	202	46	16	2	0			7,397	3,369	161,507	95,748	4.6	3.5
平元	5,185	2,497	652	238	629	210	686	199	48	14	1	0			7,201	3,158	156,680	91,502	4.6	3.5
平2	2,328	783	1,140	783	1,518	421	1,609	816	110	19	11	9		1	6,717	2,831	152,668	87,619	4.4	3.2
平3	2,252	766	1,142	813	1,486	391	1,597	799	29	83	14	8		1	6,521	2,860	149,153	85,001	4.3	3.3
平4	2,168	733	1,140	782	1,422	390	1,538	813	23	77	11	7			6,302	2,802	145,739	82,396	4.3	3.4
平5	2,110	680	1,110	803	1,356	407	1,506	1,186	18	71	10	5			6,110	3,152	142,339	79,203	4.3	4.0
平6	2,047	614	1,097	796	1,293	407	1,448	751	13	72	5	9			5,903	2,649	139,346	76,265	4.2	3.5
平7	1,977	589	1,065	803	1,242	375	1,414	726	10	68	12	8			5,720	2,569	136,361	74,105	4.2	3.5
平8	1,425	339	1,582	1,013	1,098	369	1,283	710	97	58	2	8			5,487	2,497	132,149	73,180	4.2	3.4
平9	1,334	314	1,503	1,010	1,117	364	1,203	712	80	69	1	3			5,238	2,472	128,340	72,283	4.1	3.4
平10	1,298	302	1,469	940	1,049	346	1,128	703	76	58	0	0			5,020	2,349	125,648	70,481	4.0	3.3
平11	1,222	292	1,398	921	995	329	1,096	713	78	58	0	0			4,789	2,313	123,443	67,831	3.9	3.4
平12	1,160	285	1,350	858	953	336	1,044	692	77	47	0	0			4,584	2,218	121,396	65,681	3.8	3.4
平13	1,042	312	1,318	840	920	333	999	682	64	44	0	0			4,343	2,211	120,264	64,305	3.6	3.4
平14	1,132	476	932	475	1,148	325	794	644	4	41	0	0			4,010	1,961	119,455	63,335	3.4	3.1
平15	1,114	474	1,039	581	951	288	768	613	0	43	0	0			3,872	1,999	119,760	60,356	3.2	3.3
平16	1,090	231	809	535	1,116	243	698	563	0	43	0	0			3,713	1,572	119,273	58,629	3.1	2.7
平17	1,093	353	774	398	1,033	217	665	567	0	35	0	0			3,565	1,570	118,877	58,272	3.0	2.7
平18	1,086	342	731	401	1,019	205	620	554	0	39	0	0			3,456	1,541	118,536	58,059	2.9	2.6
平19	1,020	341	708	415	952	193	584	567	0	33	0	0			3,264	1,549	117,423	58,034	2.8	2.7
平20	921	316	647	407	887	191	531	516	0	32	0	0			2,986	1,462	117,196	57,621	2.5	2.5
平21	863	307	628	392	819	183	534	499	0	29	0	0			2,844	1,410	115,679	58,195	2.5	2.4
平22	1,380	636	592	312	301	124	473	384	137	62	0	0			2,883	1,518	114,650	57,508	2.5	2.6
平23	1,233	563	568	356	403	118	440	370	134	65	0	0			2,778	1,472	112,674	57,383	2.5	2.6
平24	1,107	530	534	336	346	16	433	449	125	58	0	0			2,545	1,389	110,375	56,626	2.3	2.5
平25	1,095	521	421	337	323	23	421	421	123	57	0	0			2,383	1,359	108,395	56,228	2.2	2.4

Ⅱ　平成25年度　群馬県へき地教育振興会役員

平成25．５．１現在

会　長　星野巳喜雄（沼田：沼田市長）
副会長　宮前鍬十郎（多野：神流町長）　　篠原　勝郎（吾妻：中之条町教育委員長）
　　千明　金造（利根：片品村長）
理　事　佐藤　博之（前橋：前橋市教育長）　　小林巳喜夫（渋川：渋川市教育長）
　　飯野　眞幸（高崎：高崎市教育長）　　中澤　四郎（安中：安中市教育長）
　　齋藤　義久（多野：神流町教育長）　　土屋東一郎（甘楽：南牧村教育長）
　　篠原　勝郎（吾妻：中之条町教育委員長）　星野巳喜雄（沼田：沼田市長）
　　千明　金造（利根：片品村長）

評議員

郡　　市	町　　村	評　　議　　員
前　橋　市		佐　藤　博　之　（教育長）
渋　川　市		小　林　巳喜夫　（教育長）
高　崎　市		飯　野　眞　幸　（教育長）
安　中　市		中　澤　四　郎　（教育長）
多　野　郡	上　野　村	田　村　正　利　（教育長）
	神　流　町	齋　藤　義　久　（教育長）
甘　楽　郡	南　牧　村	土　屋　東一郎　（教育長）
吾　妻　郡	中之条町	唐　澤　正　明　（教育長）
	長野原町	黒　岩　文　夫　（教育長）
	嬬　恋　村	熊　川　　浩　（教育長）
	草　津　町	中　澤　　隆　（教育長）
	高　山　村	髙　橋　直　幸　（教育長）
	東吾妻町	高　橋　啓　一　（教育長）
沼　田　市		宇　敷　重　信　（教育長）
利　根　郡	片　品　村	星　野　準　一　（教育長）
	昭　和　村	板　橋　芳　郎　（教育長）
	みなかみ町	牧　野　堯　彦　（教育長）

監　事　　黒岩　文夫（吾妻：長野原町教育長）　　星野　準一（利根：片品村教育長）

平成25年度　へき地教育振興会事務局及び郡市町村事務担当者・担当指導主事

事務局　書記・会計　増茂　孝行・佐々木裕也

郡市町村	連　絡　先	事務担当者	へき地担当指導主事
前　橋　市	前橋市教育委員会	宮　崎　俊　一	小　池　英　雄 （中部教育事務所）
渋　川　市	渋川市教育委員会	名　塚　　浩	
高　崎　市	高崎市教育委員会	高　槝　義　弘	池　田　卓　巳 （西部教育事務所）
安　中　市	安中市教育委員会	城　田　敬　子	
上　野　村	上野村教育委員会	今　井　信　夫	
神　流　町	神流町教育委員会	齋　藤　朋　美	
南　牧　村	南牧村教育委員会	小　池　悦　子	
中之条町	中之条町教育委員会	本　多　　守	佐　藤　三枝子 （吾妻教育事務所）
長野原町	長野原町教育委員会	矢　野　今朝治	
嬬　恋　村	嬬恋村教育委員会	宮　崎　　孝	
草　津　町	草津町教育委員会	椛　澤　知恵子	
高　山　村	高山村教育委員会	平　方　英　俊	
東吾妻町	東吾妻町教育委員会	西　巻　雅　子	
沼　田　市	沼田市教育委員会	後　藤　一　将	佐々木　　孝 （利根教育事務所）
片　品　村	片品村教育委員会	芝　崎　悟　史	
昭　和　村	昭和村教育委員会	中　島　伸　枝	
みなかみ町	みなかみ町教育委員会	小　倉　正　人	

Ⅲ　平成25年度　群馬県へき地教育研究連盟役員

役　　員

・理事長　　吉 野 隆 哉（利根：片品村立片品小学校）
・副理事長　今 井　 典 幸（安中：安中市立松井田北中学校）
　　宮 﨑　 光 男（吾妻：嬬恋村立田代小学校）
　　角 田　 和 志（利根：沼田市立利根中学校）
・常任理事　並 木 伸 一（甘楽：南牧市立南牧中学校）
　　冨 沢　　正（吾妻：中之条町立六合小学校）
・事務局長　梅 澤 克 之（利根：片品村立片品南小学校）
・会計部長　西 山 和 子（渋川：渋川市立南雲小学校）
・理　　事

ﾌﾞﾛｯｸ 郡市	氏　　名	勤　務　校	勤務校所在地（電話番号）	備　　考
A 前橋・高崎・安中・多野・甘楽	今井　典幸	安中市立松井田北中学校	安中市松井田町上増田3602-1 （027-393-1520）	副理事長 調査部長
	並木　伸一	南牧村立南牧中学校	甘楽郡南牧村大日向1045 （0274-87-2501）	常任理事
	伊勢川　聰	高崎市立倉渕小学校	高崎市倉渕町権田314-1 （027-378-3218）	
	飯出　哲夫	上野村立上野中学校	多野郡上野村楢原113 （0274-59-2040）	
	長谷川好江	安中市立細野小学校	安中市松井田新井365 （027-393-1322）	
B 吾妻	宮﨑　光男	嬬恋村立田代小学校	吾妻郡嬬恋村田代438 （0279-98-0042）	副理事長 総務部長
	唐澤　　宏	長野原町立第一小学校	吾妻郡長野原町林1394-5 （0279-82-2145）	
	埴田　栄一	草津町立草津小学校	吾妻郡草津町草津3-1 （0279-88-2156）	

B 吾 妻	髙山　明彦	東吾妻町立岩島中学校	吾妻郡東吾妻町岩下1887 (0279-67-2037)	
	冨沢　　正	中之条町立六合小学校	中之条町小雨599-1 (0279-95-3571)	常任理事
C 利 根 沼 田 ・ 渋 川	吉野　隆哉	片品村立片品小学校	利根郡片品村鎌田3952 (0278-58-3126)	理事長
	角田　和志	沼田市立利根中学校	沼田市利根町追貝334 (0279-56-2044)	副理事長 研究部長
	髙橋　和広	沼田市立平川小学校	沼田市利根町平川839 (0278-56-2009)	
	梅澤　克之	片品村立片品南小学校	利根郡片品村花咲2118 (0278-58-3521)	事務局長
	西山　和子	渋川市立南雲小学校	渋川市赤城町長井小川田1435 (0279-56-2911)	会計部長
「板木」 実務 担当	並木　伸一	南牧村立南牧中学校	甘楽郡南牧村大日向1045 (0274-87-2501)	

Ⅳ　平成25年度　群馬県へき地教育センター指導員

センター名	氏　　名	勤　務　先	勤務校所在地（電話番号）
吾妻西部	橋詰　忠明	嬬恋村東部公民館内	〒377-1526 嬬恋村大字三原691 (0279-80-2330)
吾妻東部	中澤　章文	中之条町立中之条小学校内	〒377-0423 中之条町大字伊勢町1035-1 (0279-75-2130)
利　　根	原澤 和弥	川場村教育委員会内	〒378-0101 利根郡川場村大字谷地2409-1 (0278-52-3458)

Ⅴ　平成25度へき地教育功労者

No.	氏　　名	該当する内規・功績の概要
1	小關（こせき）　環（たまき） **高崎市教育委員会推薦**	２（１）（ア） 平成２４年度中に高崎市立宮沢小学校指導校務員として退職するまで、旧榛名町（現高崎市）内のへき地学校に２２年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
2	大村（おおむら）　和子（かずこ） **中之条町教育委員会推薦**	２（１）（ア） 平成２５年３月に中之条町立伊参小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に３２年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
3	関（せき）　貞美（さだみ） **中之条町教育委員会推薦**	２（１）（ア） 平成２５年３月に中之条町立伊参小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に２１年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
4	山田（やまだ）　淳子（あつこ） **中之条町教育委員会推薦**	２（１）（ア） 平成２５年３月に中之条町立中之条中学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に１５年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
5	坂井（さかい）　宏治（こうじ） **長野原町教育委員会推薦**	２（１）（ア） 平成２５年３月に長野原町立西中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に１８年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
6	森田（もりた）　佐千代（さちよ） **長野原町教育委員会推薦**	２（１）（ア） 平成２５年３月に長野原町立応桑小学校養護教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に１５年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
7	熊川（くまがわ）　正憲（まさのり） **長野原町教育委員会推薦**	２（１）（ア） 平成２５年３月に長野原町立中央小学校事務部長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に２７年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
8	熊川（くまがわ）　貞司（ていじ） **嬬恋村教育委員会推薦**	２（１）（ア） 平成２５年３月に嬬恋村立西小学校校長として退職するまで、吾妻郡内等のへき地学校に１６年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
9	森田（もりた）　由紀夫（ゆきお） **東吾妻町教育委員会推薦**	２（１）（ア） 平成２５年３月に東吾妻町立岩島中学校校長として退職するまで、吾妻郡内へき地学校に２０年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

あ　と　が　き

群馬県へき地教育資料「板木」第62集の発刊にあたり、ご指導くださいました群馬県教育委員会の先生方をはじめ、ご協力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

「板木」は、昭和27年に群馬県へき地教育の資料集として第１号が創刊され、以来途切れることなく刊行されてきました。この間、多くの方々の努力により、群馬県におけるへき地教育の歩みを示すものとして、その価値を確かなものとしております。

群馬県においても少子・高齢化、人口の都市部への集中は顕著であり、小・中学校の統廃合が後を絶ちません。へき地校だけに限っても、平成15年度には70校ありましたが、今年度は46校であり、10年間で実に３分の１の学校がなくなっているということになります。

そのような状況の中、各へき地校では、少人数の利点を生かしたきめ細かな指導、恵まれた自然環境のもとでの体験活動等、地域に根差した特色ある教育活動が日々実践されています。「板木」第62集には、へき地校ならではのよさを生かした教育実践が多数掲載されております。また、来年度は、群馬県に於いて「第63回全国へき地教育研究大会」が開催されます。そのプレ大会として「県へき地教育研究大会」で実施された「群馬大会」に向けての概要を紹介してあります。これらを参考にして、各校において明日からの教育実践に生かしていただければ幸いです。

今年度も、ご多用の中にもかかわらず、へき地教育に邁進している多くの方々から、原稿執筆・編集等ご協力を頂きました。おかげさまで、無事平成25年度のへき地教育の記録を残すことができました。心よりお礼申し上げます。

皆様の協力によりできあがった「板木」第62集が、今後のへき地教育推進の資料としてより多くの人に活用されることを願っております。

なお、編集に携わったメンバーは、次のとおりです。

群馬県教育委員会事務局	久保　信行（義務教育課長）
	鈴木　佳子（義務教育課補佐　教科指導係長）
	増茂　孝行（義務教育課　教科指導係　指導主事）
	佐々木裕也（義務教育課　教科指導係　指導主事）
群馬県へき地教育研究連盟	吉野　隆哉（県へき連　常任理事・理事長）
	今井　典幸（県へき連　常任理事・副理事長・調査部長）
	宮﨑　光男（県へき連　常任理事・副理事長・総務部長）
	角田　和志（県へき連　常任理事・副理事長・研究部長）
	冨沢　　正（県へき連　常任理事・監査）
	梅澤　克之（県へき連　常任理事・事務局長）
	西山　和子（県へき連　常任理事・会計部長）
	伊勢川　聰（県へき連　理事）
	飯出　哲夫（県へき連　理事）
	長谷川好江（県へき連　理事）
	唐澤　　宏（県へき連　理事）
	埴田　栄一（県へき連　理事）
	髙山　明彦（県へき連　理事）
	髙橋　和広（県へき連・理事）
	並木　伸一（県へき連　常任理事・「板木」担当）